

葵歴史のまちづくりグランドデザイン（案）



目次

1. はじめに	02
2. 静岡都心の歴史と動向	06
3. 静岡都心の役割と方向性	09
4. グランドデザインの目指す姿と方針	10
方針1 〈歴史を身近に感じる〉	14
方針2 〈「おまち」のファンになる〉	18
方針3 〈心地よく暮らしやすい〉	22
5. エリア別の方向性	26
①浅間神社・臨済寺周辺エリア	27
②駿府城公園周辺エリア	28
③青葉通り周辺エリア	29
④J R静岡駅周辺エリア	30
6. グランドデザインの実現化に向けた実施体制	31
<用語集>	32
<資料編>	34

1. はじめに

社会情勢の変化

『人口減少・少子高齢化』

- 日本の人口は2010年をピークに減少し、少子高齢化が進行しています。人口減少は、地域活力の低下、経済規模の縮小など、社会全体に多大な影響を及ぼすことが懸念されます。
- 本市の人口は、国よりも20年早い1990年から減少を続けており、2019年には70万人を下回るなど、今後も更なる人口減少・少子高齢化は避けられないと見込まれます。

『価値観・ライフスタイルの多様化』

- グローバル化の進展、社会構造の変化、科学技術の進化などに伴い、人々の「豊かさ」の価値観や、求めるライフスタイルが多様化しています。また、「人生100年時代」と言われる中、65歳を超えても、生き生きと働きながら暮らすことを望む高齢者が増加しています。

『SDGsの推進』

- 地球温暖化に伴う異常気象や、自然破壊、貧困、格差、差別など、世界は未だ深刻な問題を数多く抱えています。これらの問題に対応するため、2015年の国連サミットにおいて加盟国の全会一致で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、今や日本においても多くの企業や個人の間で認知され、取組が進められています。
- SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念をまちづくりに取り入れていくことが求められています。

『新型コロナウイルス感染症の感染拡大』

- 2019年12月に出現したといわれる新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に広がり、多くの命を奪う大流行となりました。また同時に、人々のライフスタイル、ビジネススタイルを大きく変える契機ともなっています。

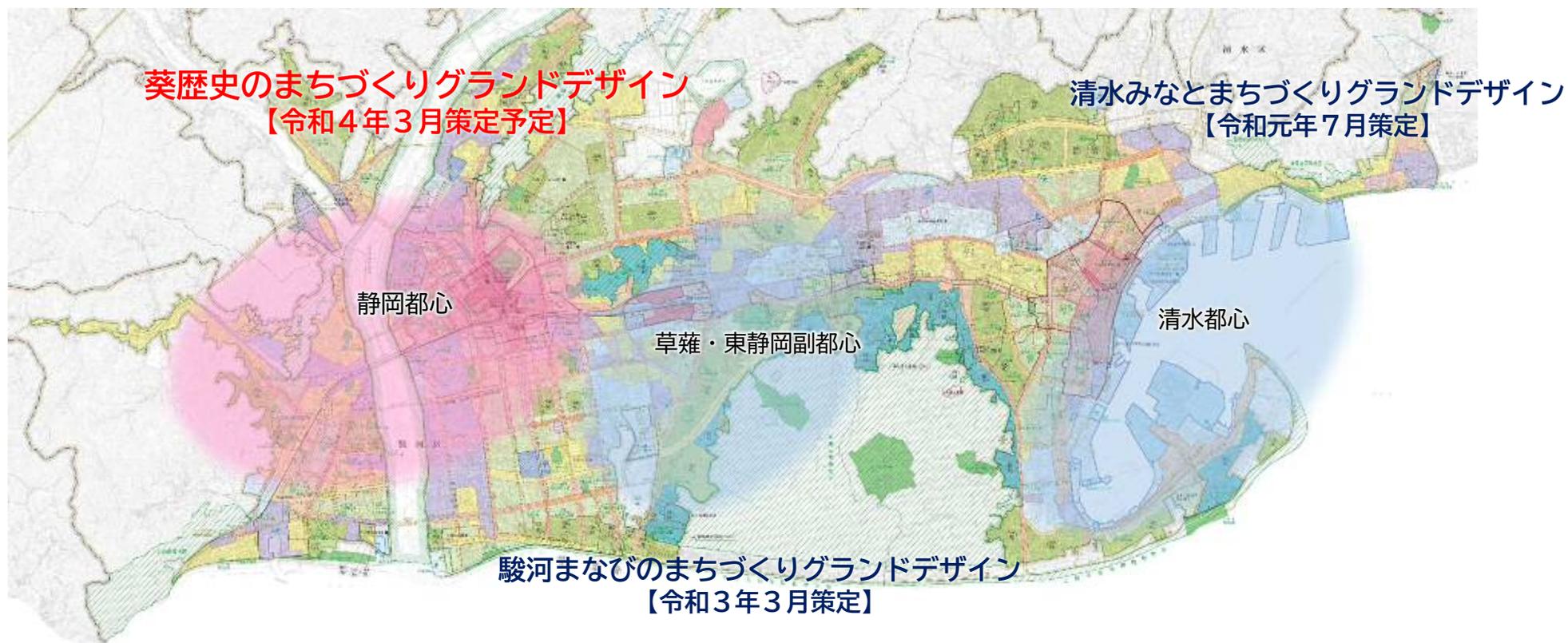
『デジタル技術の進展』

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、IoT、AIといった、社会におけるデジタル技術の進展が加速しています。
- 一方で、日本国内の行政活動におけるデジタル化の遅れなどの課題が顕在化しており、国は2021年9月にデジタル庁を発足させるなど、早急な対策を進めています。
- まちづくりにおいても、積極的にデジタルを活用することが求められています。

1. はじめに

本市のまちづくりの状況

- 静岡市では、これまで、県都にふさわしい都市の基盤を整えるため、都市拠点、交通軸などの整備を進め、都心・副都心を中心とした東西に広がる都市構造を充実させてきました。
- その都市拠点におけるまちづくりの状況としては、清水都心では、令和元年7月に「清水みなとまちづくりグランドデザイン」を策定し、草薙・東静岡副都心では、令和3年3月に「駿河まなびのまちづくりグランドデザイン」を策定し、取組を進めています。
- 静岡都心におけるグランドデザインを策定し、本市のすべての都市拠点におけるまちづくりの方向性を示します。
- グランドデザインの名称については、各都心・副都心の特色をイメージしており、港湾都市として発展した清水都心を「清水みなと」、教育機関や文化施設の立地を生かした草薙・東静岡副都心を「駿河まなび」としたことを踏まえ、歴史資源が豊富に残されている静岡都心を「**葵歴史**」と定めます。

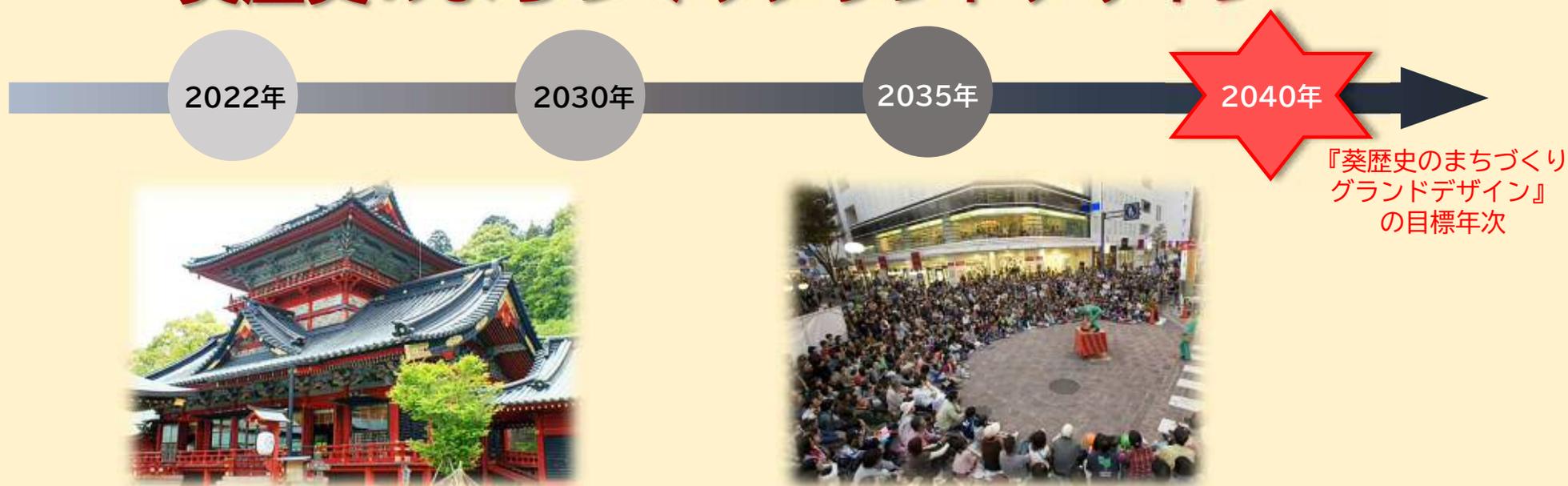


1. はじめに

グランドデザイン策定の目的

- 静岡都心に新たな価値を加える歴史資源を活かした「歴史文化の拠点づくり」と、静岡都心をけん引してきた商業・業務エリアの今後のあり方を検討する「都心再生に向けたまちづくり」は、空間的に重なり合い、機能的にも相互に関連しています。
- 「歴史文化」と「都心再生」どちらのテーマについても、共有すべき将来構想を描けていない状態にあるため、今後は目指すまちの姿を定め、一つの方向性のもとで一体的にまちづくりを進めることが重要となっています。
- また、人口減少やライフスタイルの多様化、SDGsの推進などの社会情勢の変化を考慮すると、より人間らしさを求める時代が到来することが予測され、将来のまちのあり方も変化することが想定されます。
- そこで、静岡都心において、「歴史文化」「都心再生」の2つのテーマに重点を置き、中長期的な視点に立ったおよそ20年後の「目指すまちの姿」及び「実現に向けた方針・視点」を示す『葵歴史のまちづくりグランドデザイン』を策定しました。

葵歴史のまちづくりグランドデザイン



2. 静岡都心の歴史と動向

1 江戸時代以前

地域の重要エリア

- ◆駿府（現在の静岡都心）は、原始古代から地域の中心的なエリアだった。
- ◆室町時代には今川義元をはじめとする戦国大名今川氏の館が置かれ、徳川家康は幼少期に今川氏の下で育った。後に家康は、今川館と同じ地に自らの居城である駿府城を築城した。

2 江戸時代

「神君家康公」のおわした町 駿府

- ◆家康在城時、10万人を数えた駿府の人口は、幕府直轄地となる1630年代には、1万人弱まで激減した。
- ◆駿府の支配は、全国の大名家や旗本が短期間で交代する形で執り行うようになり、駿府の町人たちは「駿府九十六ヶ町」が交代で町の運営を行う制度を作り上げた。
- ◆駿府では、飢饉や災害が起こるたびに「権現様御在城之節」と、幕府に対して家康との関わりを主張することで幕府からの援助を勝ち取ってきた。駿府の人々は、家康死後も家康に守られ、家康を利用しながら町を運営していた。



「駿府城下町割絵図」
(静岡市蔵)

3 明治時代

静岡藩

- ◆明治維新後、最後の将軍となった徳川慶喜や、その跡を継いだ家達をはじめ膨大な旧幕臣たちが移住してきたため、市域の町や村は移住者たちの対応に追われた。
- ◆静岡藩は、その後の廃藩置県にともなわずか数年で消滅するが、藩の学校であった静岡学問所の教育が当時最高の水準で全国の藩が参考にするなど、文化面で強い求心力を持っていた。

4 大正時代

大正時代の都市化と文化

- ◆大正のはじめ、日本は第一次世界大戦の激化による西洋諸国の需要拡大を受け、好景気にわいていた。静岡でも工業化、都市化に伴い、水道や電灯などのインフラや鉄道・バスなどの交通網が整備された。
- ◆また、それまでは一部の知識人を中心に受容されてきた欧米の思想や文化、芸術などが大衆にも広まった。この頃、七間町には「パテー館」や「キネマ館」などの映画館ができ、七間町を中心とした繁華街を散策する「七ぶら」が流行した。



旧静岡中心市街地を走る路面電車の写真
(静岡市文化財協会蔵)

5 昭和時代

戦後復興と静岡中心市街地の整備（車社会）

- ◆太平洋戦争は、静岡都心にも甚大な被害をもたらした。戦後、県と市が進めた火災に強い「不燃化共同ビル計画」のもと生まれ変わるとともに、車中心の社会として発展を遂げた。



青葉通りと周辺の整備された風景
(静岡市文化財協会蔵)

6 平成時代・令和時代

新しい静岡市へ（車中心からひと中心へ）

- ◆平成に入ると、バブルが崩壊し、成長著しかった社会も停滞期となり、また、人口減少、高齢社会を迎えることとなった。
- ◆全国の地方都市では、中心部の空洞化が顕著になるなど、都心部が衰退傾向であったが、静岡都心では、郊外型大型商業施設に負けない、「人の賑わいの絶えないまち」として注目された。
- ◆また、平成4年（1992年）に始まった大道芸ワールドカップin静岡は、本市の秋の風物詩となり、静岡都心の新たな魅力として定着した。

2. 静岡都心の歴史と動向

○静岡都心は、各種計画でまちづくりの拠点に位置づけられています。

第3次静岡市総合計画

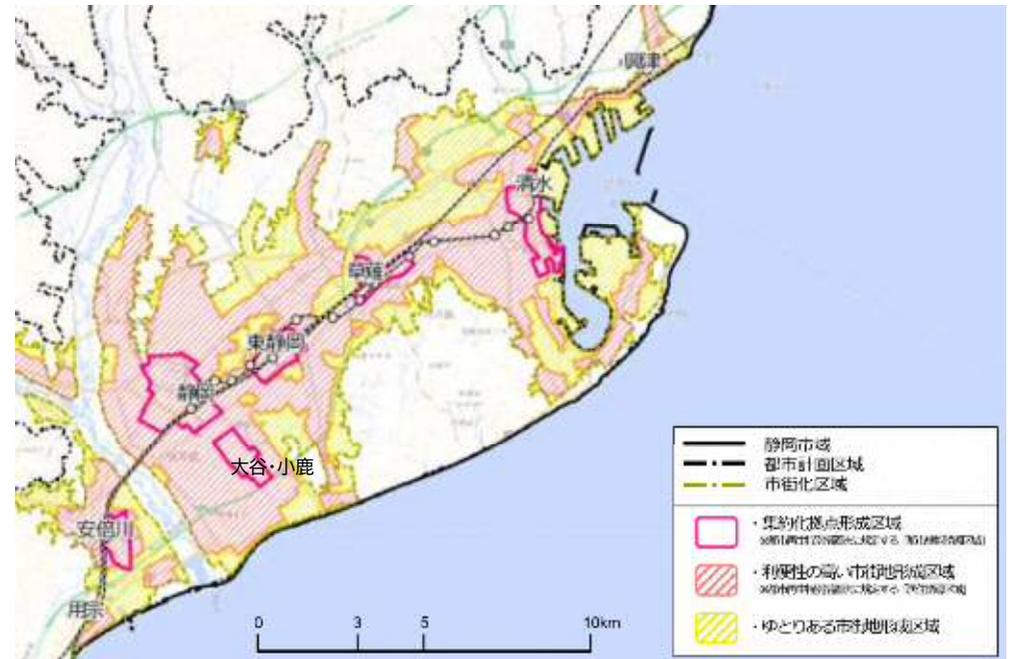
目指す都市像	都市計画マスタープラン	立地適正化計画
<p>素晴らしい歴史や文化を自慢できる 「歴史文化のまち」の実現</p>	<p>静岡駅 周辺地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市機能の集積と定住人口の誘導を図り、商都として魅力とにぎわいのある都市空間を形成 ◆ 歴史・文化を含めた観光の玄関口としての機能強化により、回遊性の向上と交流人口の増加を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 歴史文化資源を活かし、交流人口の増加に資する機能を強化 ◆ 行政、商業・業務、文化の中心としての機能を更新・集積 ◆ 子育て・福祉環境等を向上 ◆ 高齢人口の増加への対応

静岡市都市計画マスタープラン
＜計画期間：平成28～令和17年度＞



《集約連携型都市構造図》

静岡市立地適正化計画
＜目標年次：令和17年度＞



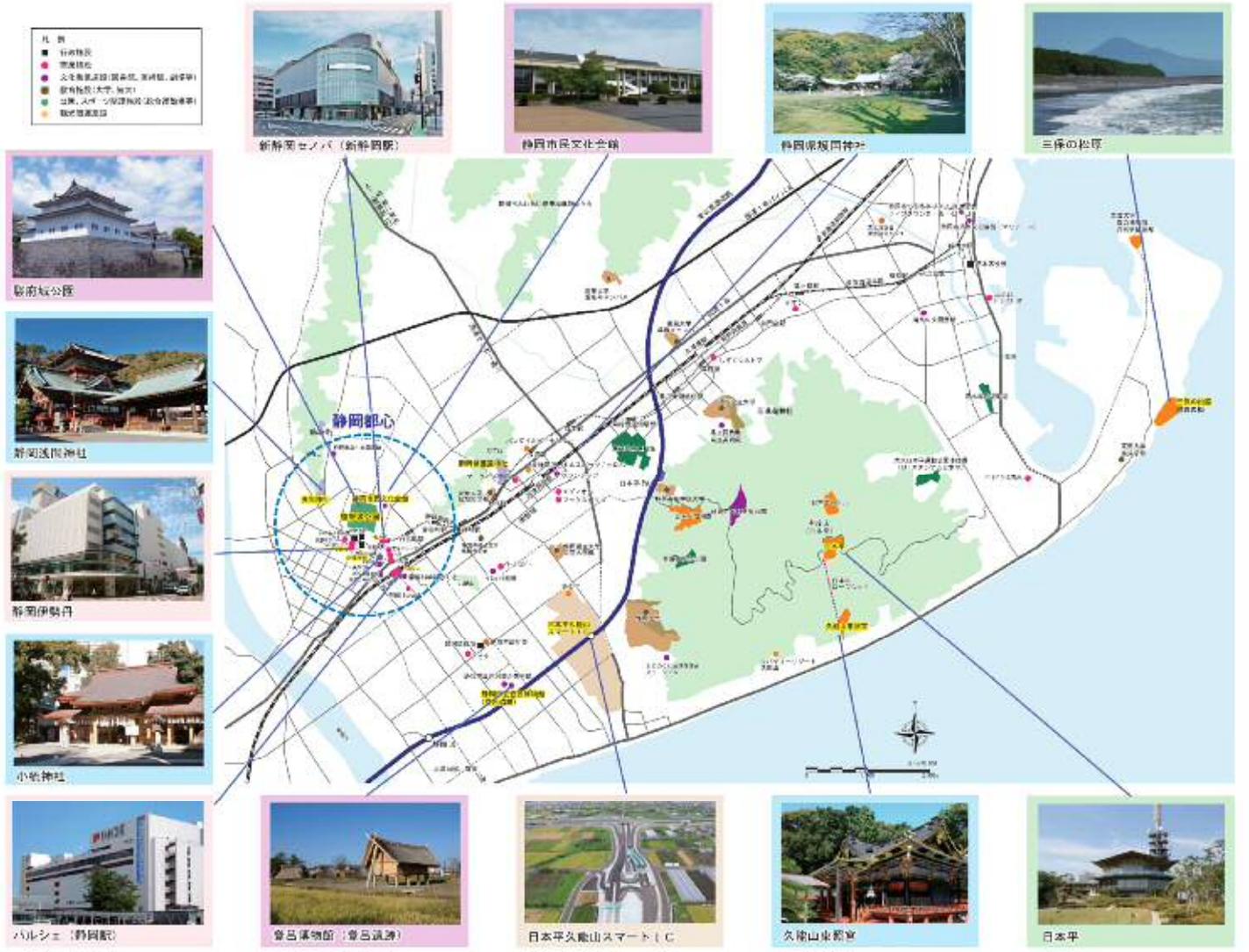
《利便性の高い市街地形成区域・ゆとりある市街地形成区域》

2. 静岡都心の歴史と動向

○静岡都心には、歴史資源や文化施設、商業施設が集積しています。

【主な施設の動向】

年	主な施設
昭和45年	県立中央図書館開館
昭和52年	静岡伊勢丹開店
昭和53年	静岡市民文化会館開館
昭和56年	静岡ビル パルシェ開店 静岡市立芹沢銈介美術館開館
昭和59年	静岡市立図書館(新築移転)
昭和61年	県立美術館開館
昭和57年	ツインメッセ静岡完成
平成元年	駿府城公園 復元巽櫓完成(たつみやぐら)
平成4年	静岡市立清水中央図書館開館
平成7年	丸井開店、静岡音楽館AOI開館
平成8年	復元二ノ丸東御門完成
平成9年	静岡県舞台芸術公園完成
平成11年	グランシップ完成 (静岡県コンベンションアーツセンター)
平成12年	久能山の国宝指定
平成16年	静岡科学館る・く・る開館
平成19年	静岡パルコ開店、109開店
平成22年	静岡市美術館、葵タワー完成
平成23年	新静岡セノバ開店
平成24年	静岡市清水文化会館マリナート開館
平成26年	駿府城公園復元坤櫓(ひつじさるやぐら)完成 呉服町タワー完成
平成29年	東急スクエア(旧109)開店 新静岡セノバリニューアルオープン
平成30年	札の辻クロス開店 日本平夢テラスオープン
令和元年	静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る開館 日本平久能山スマートIC開通
令和3年	駿府城公園 東御門・巽櫓リニューアルオープン



3. 静岡都心の役割と方向性

静岡都心は、商業、業務を中心とした都市機能とともに、徳川氏や今川氏のゆかりの地として歴史資源が数多く残されています。また、大道芸などの芸術活動や、静岡おでんをはじめとする食など、静岡特有の文化が豊富で、市民にとっては、ちょっとオシャレをして出かける憧れの場所として栄えてきました。

このため、これまで培ってきた都市機能の更新と、新たな時代に対応した都市機能へも転換しつつ、歴史資源の活用と経済の活性化を目指したまちづくりが求められます。さらに、先端技術を活用し、暮らしやすい、働きやすい、居心地がいいまちを形成し、シビックプライド（郷土愛）の醸成を図ることが重要となります。

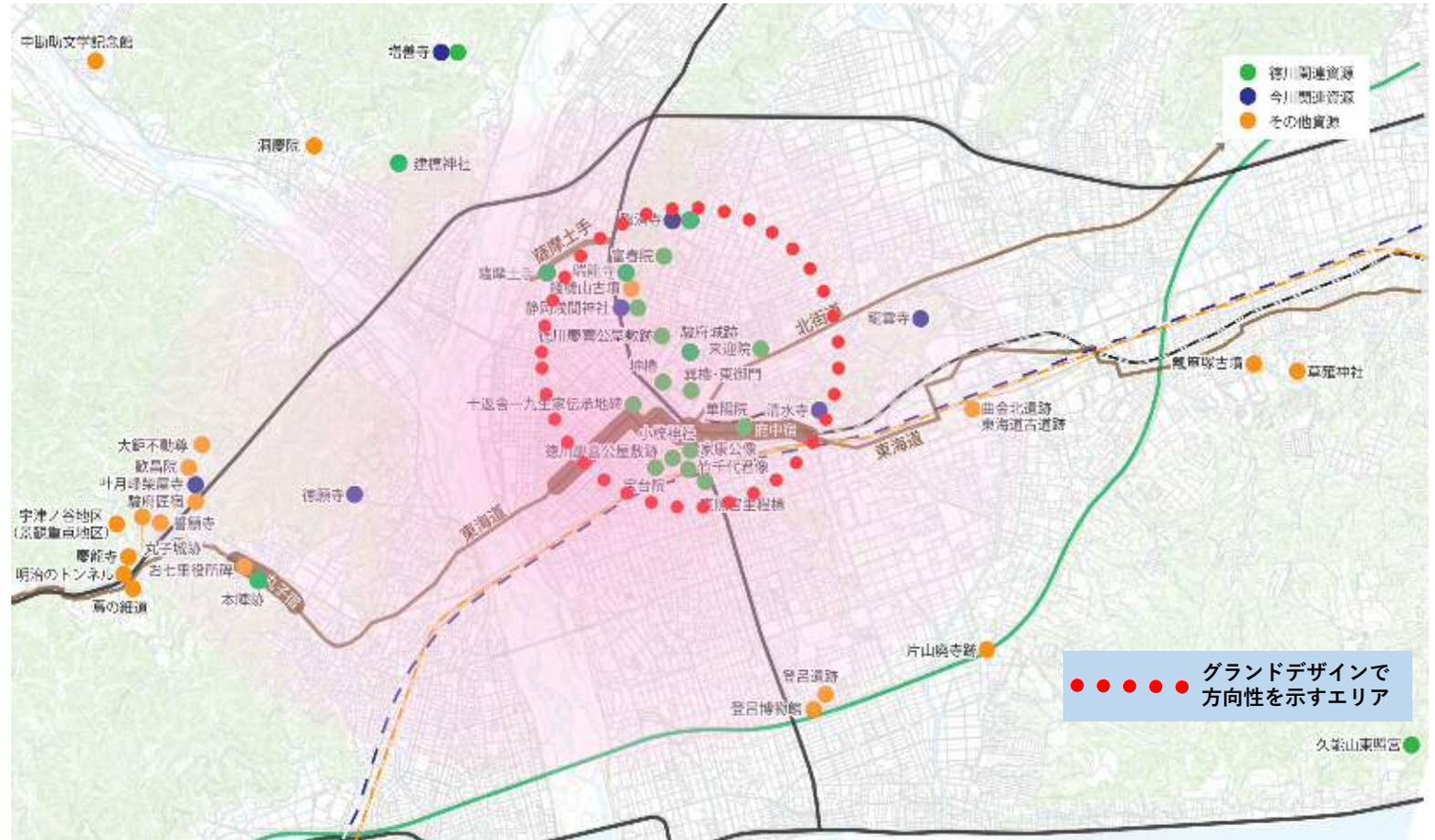
【静岡都心の役割】

- ・商業、業務を中心とした都市機能の集積
- ・官公庁、教育、文化、医療施設などの機能の集積
- ・徳川氏・今川氏などの歴史資源が集積
- ・大道芸などの芸術活動や静岡おでんをはじめとする食など静岡特有の文化が豊富
- ・市民にとっては、ちょっとオシャレをして出かける憧れの場所



【静岡都心の方向性】

- ・商業、業務の機能の集積を引き続き保つための都心の更新
- ・新たな時代に対応した都市機能への転換
- ・官公庁、教育、文化、医療などの機能を維持
- ・徳川氏・今川氏などの歴史資源を活かしたまちのブランディング
- ・歴史資源の活用と経済の活性化を目指したまちづくり
- ・先端技術を活用し、暮らしやすい、働きやすい、居心地がいいまちの形成
- ・シビックプライド（郷土愛）の醸成



※ 本市には登呂遺跡や静岡浅間神社など、様々な時代の歴史資源が数多く残されています。静岡都心の将来像を示すこのグランドデザインでは、静岡都心の周辺に広がるエリアの歴史資源を意識しつつ、徳川氏や今川氏に関連する歴史資源が集積した点線のエリアについて、まちづくりの方向性を示します。

4. グランドデザインの目指す姿と方針

《グランドデザインの目指す姿》

歴史とともに暮らす誇りを感じ、ワクワクする「おまち」

- ◆ 徳川氏・今川氏を中心とした歴史的価値が認知され、歴史資源が身近に感じられるなど、市民の生活に根付いている
- ◆ 静岡市をけん引してきた都市機能を保ちつつ、市民や来訪者が集い、経済が活性化している

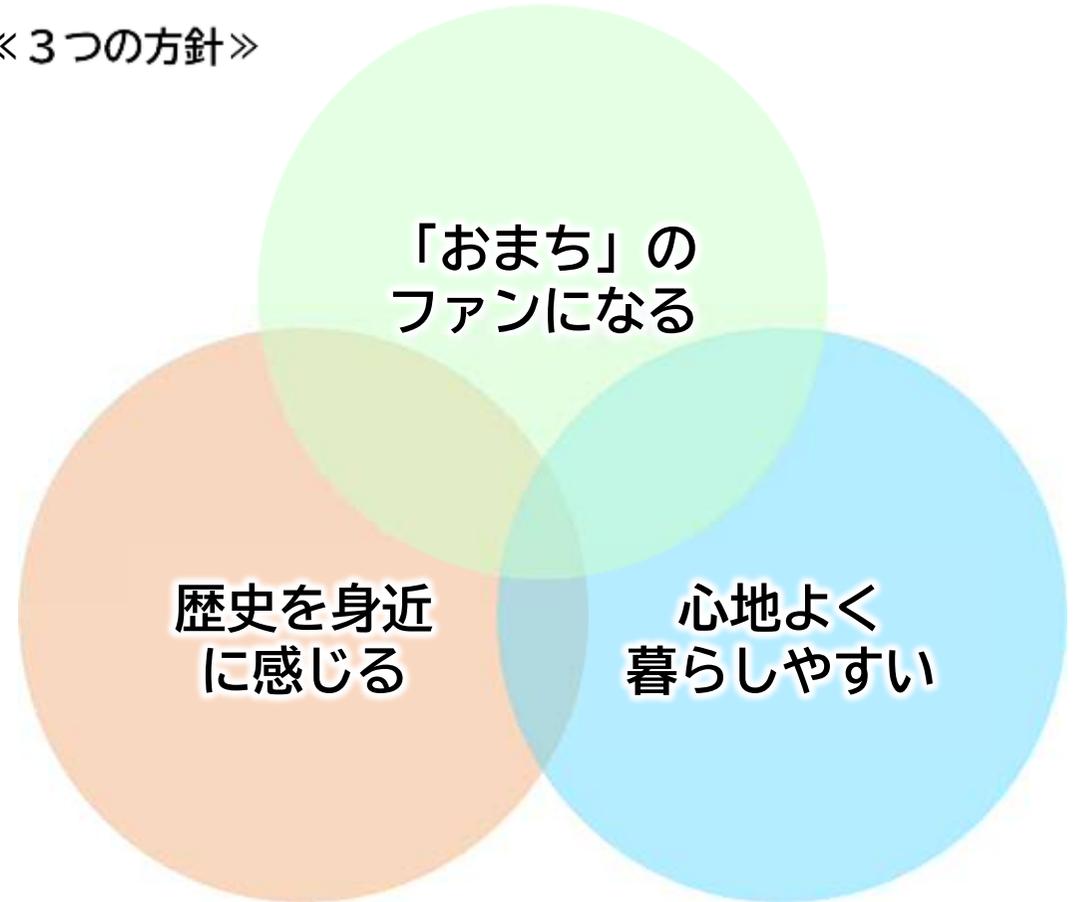
静岡都心においては、これまでの長い歴史・文化の蓄積された静岡市の中心的な都市拠点であることを踏まえ、目指す姿を『**歴史とともに暮らす誇りを感じ、ワクワクする「おまち」**』として、まちづくりを進めていきます。

静岡都心には駿府城公園や静岡浅間神社をはじめとする数多くの歴史資源が存在しています。これらの歴史資源は、過去を現在に伝える貴重な価値を有しているものの、市民生活の中で触れる機会が多いとは言えない状況です。このような歴史資源に親しんでもらうため『**歴史を身近に感じる**』を方針として掲げます。

また、まちをつくるためには、そこで関わってもらう人々を増やすことが重要です。食やホビー、芸術などの数多くの文化資源を活かし、おもてなし環境を整えることで、市民や来訪者にこのまちを好きになってもらうことを考えます。このように多くの人を巻き込み、一人ひとりが自分事としてまちを育ててもらえるように『**「おまち」のファンになる**』を方針として掲げます。

さらに、静岡都心は官公庁、教育、文化、医療などの都市機能に加え、商店街やオフィスなどの商業・業務機能が集積しています。しかし、時代の変化に伴い、まちの役割も柔軟に対応することが求められ、通院や買い物などの目的だけでなく、用事がなくても訪れたいようなまちである必要があります。このような都心の再生を図るため『**心地よく暮らしやすい**』を方針として掲げます。

《3つの方針》



「おまち」とは・・・

もともと静岡都心の一部のエリアを指し、市民にとっては敷居が高く、憧れの場所というような言葉でありました。

このグランドデザインでは、これまで培ってきた、言わば静岡弁として定着した「おまち」という言葉を大切にしたいと考え、みんなでつくるまちにしたいというメッセージも込めて、あえて「おまち」という言葉を、愛称や概念として採用します。

ファンとは・・・

このグランドデザインでは、次のようにまちに関わってくれるすべての人を「ファン」と位置付けます。

- ・おまちを好きな人
- ・おまちを訪れる人
- ・おまちでビジネスする人
- ・おまちでまちづくりに参加する人 など

4. グランドデザインの目指す姿と方針

《グランドデザインの主役》

グランドデザインの主役は、静岡市に関係する『市民・来訪者』であり、自分事としてまちづくりに取り組んでもらうことを目指し、『事業者』はビジネスにつなげることで経済の活性化を図り、『行政』は下支えするようなまちづくりなどを先導します。

《3つの方針》

①市民・来訪者

静岡特有の文化に触れることで、「おまち」のファンとなり、その魅力を発信します

②事業者

食やホビー、芸術などの文化資源を活用することで、経済の活性化につなげます

③行政

文化資源の磨き上げとともに、「おまち」ファンの交流のための仕組みづくりを進めます

①市民・来訪者

長い歴史の中で培ってきた地域の価値を発見・再認識し、後世に伝承します

②事業者

歴史資源を活用した観光交流やまちなみ景観形成への協力など、経済の活性化につなげます

③行政

市民や来訪者が、歴史を感じるができるように、触れる機会の創出や空間づくりを行います

「おまち」のファンになる

歴史を身近に感じる

心地よく暮らしやすい

①市民・来訪者

自分らしいライフデザインを描くとともに、まちの一員として地域活動の担い手となり活動に参加します

②事業者

先端技術等を活用し、新たな都市の価値を生み出すとともに、利便性の高いサービスを提供します

③行政

ひと中心のまちを目指し、安全で快適な都市空間の形成や都市機能の更新を行います

4. グランドデザインの目指す姿とまちづくりの方針

《グランドデザインの目指す姿》

歴史とともに暮らす誇りを感じ、ワクワクする「おまち」

《目指す姿を実現するための3つの方針イメージ》

『方針1 歴史を身近に感じる』

- 歴史資源を、守る、伝える、体験する、など最大限に活用し、身近に歴史を感じられる環境があふれている
- 歴史のフィールドミュージアムとして、歴史資源が保存され、コンパクトなまちなかに都市機能と歴史資源が調和している
- 歴史資源を活用した体験活動や学習活動、ビジネスなどを通じて、市民や学生、世界の観光客などがつながっている
- 文化財としての歴史資源だけではなく、駿府城公園やお堀などでの健康づくりやリフレッシュなど、市民の生活の一部として、歴史資源が息づいている

『方針2 「おまち」のファンになる』

- 都心としての求心力を保ちつつ、魅力ある文化、コンテンツが充実し、五感で楽しめる環境が整っている
- 本市に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化の持つ創造性を活かした「まち劇場」の取組の推進により、市民や来訪者が「おまち」のファンとなり、まちなかが賑わっている
- まちなかで四季や昼夜間の景観の変化が楽しめ、長時間居たくなる、歩いて楽しいまちなみが形成されている
- テレワークなど、どこでも働ける環境が整うことで、静岡で新たな生活を始める人が増え、そのファンにより「おまち」の魅力が発信されている

『方針3 心地よく暮らしやすい』

- 静岡特有の温暖な気候や穏やかな風土を活かし、時代に合わせて都市をマネジメントし、様々なライフスタイルを実現できる環境が整っている
- 空き店舗や低未利用地などの有効活用、また老朽化した建築物の更新により、中心市街地として都市機能が向上し、暮らしやすいまちが形成されている
- 市民や来訪者がまちなかの街路空間や民間空気を広場のように活用することで、コミュニケーションの場として賑わっている
- 先端技術など時代に合ったICTインフラの整備が進み、便利で新しいライフスタイルを満喫している

4. グランドデザインの目指す姿と方針

《視点の考え方》

目指す姿を実現するための3つの方針について、具体的にどのような考え方で実現していくのか、各方針に3つずつ視点を設定し、取組を具体化していきます。

方針	静岡都心の特性・課題	主な検討会意見	視点
歴史を身近に感じる	特性： 駿府城下町、戦後復興の市街地の歴史 歴史博物館の建設、静岡浅間神社の大改修 課題： 歴史資源の知名度が低い	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 徳川氏と関連づけた資源の整備が必要 ➢ 駿府城跡と歴史博物館の一体的整備が必要 ➢ 歴史教育拠点としての誇りが重要 	◆ 歴史資源の保全を図り、歴史を身近に学べる機会を創出する【視点1 歴史資源の再認識】
	特性： 葵舟の運航、東御門・巽櫓リニューアル 駿府ホリノテラスの完成 課題： 観光施設の利用者数は横ばいで推移	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 徳川氏のまちのイメージづくりが必要 ➢ MICEのユニークベニューとしての活用が必要 ➢ VR・ARの歴史体験を楽しむことが必要 	◆ 歴史資源を活用した交流を推進し、歴史を楽しむ機会を創出する【視点2 歴史資源の活用・体験】
	特性： 駿府城跡を公園として利用 課題： 歩行者通行量の減少	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 通り名を当時の名称にするなどの工夫が必要 ➢ 東海道のわかりやすい案内、表示が必要 ➢ 駿府城公園の城址空間の再整備が必要 	◆ 市民や来訪者が日常的に歴史に触れられる機会を創出する【視点3 歴史の空間づくり】
「おまち」のファンになる	特性： 県内トップの商業地、文化施設が集積 娯楽や買い物を目的とした来訪が多い 課題： ナショナルチェーンの増加	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 美食のまちとしての魅力の発信が必要 ➢ ものづくりの技術の誇りが重要 ➢ ファンベースマーケティングなどの取組が必要 	◆ 「おまち」ファンづくりに向けて、まちの魅力を楽しめる機会を創出する【視点4 文化資源の磨き上げ】
	特性： 冬も暖かく晴天率が高く過ごしやすい 滞在時間は2～3時間 課題： 都心部に公園や緑が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 花や夜景など惹きつける仕掛けが必要 ➢ 良好な景観形成による地域価値の向上が必要 ➢ 眺望や街並みを意識した街路空間づくりが必要 	◆ 来訪者を惹きつけ、やすらぎが感じられるおもてなし空間づくりを進める【視点5 憩いの空間づくり】
	特性： 東京や名古屋まで新幹線で1時間という立地 移住者、2地域居住の増加 課題： 人口減少、少子高齢化が進行	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 誰かに情報を伝えたい仕掛けづくりが必要 ➢ 新幹線を活かした首都圏、中京圏からの移住者や2地域居住への対応が必要 	◆ 「おまち」ファンを中心として、人が人を呼ぶ仕掛けづくりを進める【視点6 観光・移住の促進】
心地よく暮らしやすい	特性： 官公庁施設、教育・文化施設等が集積 呉服町通りなどでの再開発事業の実施 課題： 建築物の老朽化、空き店舗の増加	<ul style="list-style-type: none"> ➢ まちを活かすマネジメントの時代 ➢ 教育施設や病院など日常的な目的となる施設の維持・拡充が必要 	◆ 都市アセットの活用により持続可能なまちの形成に向けた都市機能の更新を進める【視点7 まちの更新】
	特性： 複数の商店街が広がる 課題： コインパーキングの増加や路上駐輪の増加 活動する団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 産学官民金の連携や市民参加による課題解決が必要 ➢ 通りや町単位での個性の創出が必要 	◆ 公民共創によりまちなかのオープンスペースを日常的に活用し、賑わいを創出する【視点8 まちをつかう】
	特性： デジタル社会の到来 保守的な市民風土 課題： Eコマースの普及によるまちなかの役割	<ul style="list-style-type: none"> ➢ デジタル技術の活用が重要 ➢ ICTインフラ発展によりテレワークの生産性が向上 ➢ データで行動が最適化される時代 	◆ 時代に沿った先端技術の活用により、多様なライフスタイルの実現を図る【視点9 先端技術の活用と浸透】

視点1 歴史資源の再認識

歴史資源の保全を図り、歴史を身近に学べる機会を創出する

- ▶ 市内には、徳川氏や今川氏を中心とした歴史資源をはじめ、丸子宿や登呂遺跡などの様々な歴史資源が存在しています。
- ▶ 静岡都心では、徳川時代の駿府九十六ヶ町の町名の由来を記した町名碑などがありますが、城下町の名残に日常生活で触れる機会は少ない状況です。
- ▶ このように、貴重な歴史資源は存在するものの、市民の関心や認知度は低い状況であるため、まずは歴史に興味を抱いてもらう必要があります。そして、歴史の持つ奥深さについて、学ぶ機会が充実していることが重要です。
- ▶ このため、市民が日常的に訪れる商店街などで、歴史に触れることのできる仕掛けづくりを進め、歴史あるまちとしてのイメージを磨き上げることが求められます。
- ▶ また、市民がまちの歴史を再認識することで、歴史あるまちに暮らすことに誇りを持ち、地域に定着していくことが重要となることから、特に、将来を担う小中学生などが、楽しく歴史を学ぶことのできる機会を提供することが必要です。



『静岡市歴史博物館整備イメージ』

検討会での意見・アイデア 

静岡市歴史博物館、東御門・巽櫓の活用

● 静岡市歴史博物館、東御門・巽櫓の活用

- ✓ 徳川氏・今川氏を中心とした歴史を伝え、その魅力を広く国内外に発信する静岡市歴史博物館の活用を進める
- ✓ 小中学生などが、楽しく城下町などの歴史を学ぶことのできるコンテンツづくりを進め、学びを通じて郷土愛を醸成する など

● AR・VRなどのデジタル技術を活用したまちなかでの歴史体験の提供

- ✓ AR（拡張現実）：スマートフォンのカメラ等を使用して実際に見えている景色にデジタルエレメントを追加し、江戸時代などの歴史景観を見せる
- ✓ VR（仮想現実）：シミュレーションした環境で現実の環境を歴史の景観に置き換えて、没入できる体験を提供する
- ✓ ブロックチェーンの技術を利用したデジタルアーカイブ など

歴史を知る機会の提供

● 地域内ナレッジマネジメントによるシビックプライドの醸成

- ✓ 歴史に関するナレッジマネジメント（個人の知識を共有する）を進め、シビックプライド（郷土愛）を醸成する など

● 歴史資源の保存

- ✓ 歴史的遺構を復原（元々の姿が改造された現状の姿を元通りに戻す）する など

● 歴史インタープリターの育成

- ✓ インタープリター（子ども～高齢者など様々な年齢層の解説者）を育成する
- ✓ オーラルヒストリー（関係者の証言・口述による歴史資料）により伝承する など

● 歴史文化を学べるeラーニングの開催

- ✓ 自由な時間で市内外のファンが静岡市を深く学べるオンライン教材を作成する
- ✓ 静岡市の歴史に関する認定試験や検定を開催する など

● 徳川氏ゆかりの都市との連携

- ✓ 徳川氏とのゆかりがある全国に点在している都市と、学生の修学旅行等で交換学習を行う など

視点2 歴史資源の活用・体験

歴史資源を活用した交流を推進し、歴史を楽しむ機会を創出する

- 商業、業務などの都市機能が集積した中心市街地である静岡都心においては、市民の日常的なレクリエーションや地域の祭り、観光交流などに、歴史資源が活用されています。
- 駿府城公園は、市街地の貴重な緑豊かなオープンスペースとして市民や来訪者に親しまれており、週末には、ヨガ、マルシェなど様々なイベントが開催されています。
- 静岡都心には、市民に認知されていない歴史資源は数多く眠っています。そのような歴史資源を発掘し、積極的に活用することで、市民や来訪者が日常的に歴史資源に触れられるようなきっかけづくりが重要です。
- 今後、家康を主役とした大河ドラマの放映なども控えており、家康に関連する歴史資源が全国から注目されることが想定されるため、その機会を活かしていく必要があります。



『葵舟』



『Park & FIT』

検討会での意見・アイデア

駿府城公園周辺を中心とした体験機会の創出

- 静岡の歴史をテーマにしたイベントの開催
 - ✓ 静岡まつり、廿日会祭、駿府本山お茶まつりの開催
 - ✓ 歴史ストーリーを組み込んだシンボルコンテンツ（イベント）の開発を支援する など
- 歴史資源の改修や発掘調査を通じた歴史を知る機会の提供
 - ✓ 静岡浅間神社の平成・令和の大改修
 - ✓ 天守台跡地を見える化し、歴史の教育、体験、観光に活用する など
- 駿府城公園などの歴史資源の積極的な活用
 - ✓ 東御門・巽櫓、坤櫓、紅葉山庭園を活用する
 - ✓ 駿府城公園を文化&スポーツ振興の拠点として、歴史との融合を拡張し、まちなかとの連携を進める など
- 歴史文化観光のプログラム開発
 - ✓ 外国の方でも江戸時代やお茶文化を深く体験・理解できるプログラムの開発やガイドの養成を進める など

歴史資源を活用した新しい交流の推進

- 令和5年大河ドラマ「どうする家康」との連携
 - ✓ 大河ドラマとの連携に向けた環境整備や体制づくりを進める など
- 「歴史×〇〇」など裾野を広げる取組の推進
 - ✓ 歴史×スポーツ、歴史×エンタメ、歴史×アートなどの切り口でシンボルイベント（全国に訴求するレベルのもの）を開催する など
- MICEのユニークベニューとしての歴史資源を活用
 - ✓ MICE（M企業等の会議、I研修旅行、C大規模な国際会議、E国際見本市等）を誘致、開催する
 - ✓ その際、ユニークベニュー（歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出）として、駿府城公園や歴史的な建築物等を活用する など

視点3 歴史の空間づくり

市民や来訪者が日常的に歴史に触れられる機会を創出する

- ▶ 静岡都心は、徳川氏や今川氏を中心とした長い歴史を有しており、江戸時代には、駿府城を中心とした城下町がつくられ、現在も呉服町や両替町等の町名が残されたまま、静岡市の中心市街地として賑わっています。
- ▶ このため、静岡都心では、商業、業務などの都市機能と、駿府城公園や静岡浅間神社などの歴史資源が、日常生活圏に共存しています。
- ▶ このような環境は、静岡都心の大きな魅力のひとつであり、将来に渡り、歴史資源を活用し、日常的に歴史を感じることでできる空間づくりを行うことが重要となります。
- ▶ そこで、駿府城公園界隈を中心に、道路や公園などの公共施設において、魅力的で歴史が感じられる空間づくりを進めます。また、沿線の民間事業者と連携し、来訪者がタイムスリップしたと錯覚するような空間づくりも効果的です。



『東御門・巽櫓』

歴史が感じられる仕掛けづくり

● 駿府城（公園）のシンボル空間としての利活用

- ✓ 雄大な駿府城跡と、現代の街並みが融合する景観を楽しむ葵舟を運航する
- ✓ 駿府城公園周辺をライトアップする
- ✓ 歴史の玄関口としての駿府ホリノテラスを活用する など

● 日常的に歴史を感じる仕掛けづくり

- ✓ 通りや公園、地名などに当時の名称を使用する（例 外堀通り）
- ✓ 「歴史を感じるまちかどコレクション」を表彰する
- ✓ VR・AR、デジタルマップ等による歴史空間・歴史情報へのシームレス（容易に複数のサービスを利用可能）なアクセスを確保する など

歴史資源を活用したまちなみ形成

● 歴史景観の形成に向けたガイドラインの策定

- ✓ 歴史を感じる景観の形成のための地区を明示し、デザインガイドラインを策定する
- ✓ 「重点地区景観計画」に歴史的視点を発展させた“静岡ルール”を策定する など

● 歴史のストーリーが感じられる歩行者空間づくり

- ✓ 駿府城公園、静岡浅間神社から臨済寺への回遊性を高める「今川歴史街道」を整備する
- ✓ 道路舗装の変更や重要な辻のデザインなどにより旧東海道の道筋を示す
- ✓ 静岡浅間神社までの道筋を整備し、静岡駅からの行動圏（商圈）を拡大する
- ✓ 外堀から駿府城公園につながる道について、歴史を感じるができる空間整備を行う など



『東御門橋』

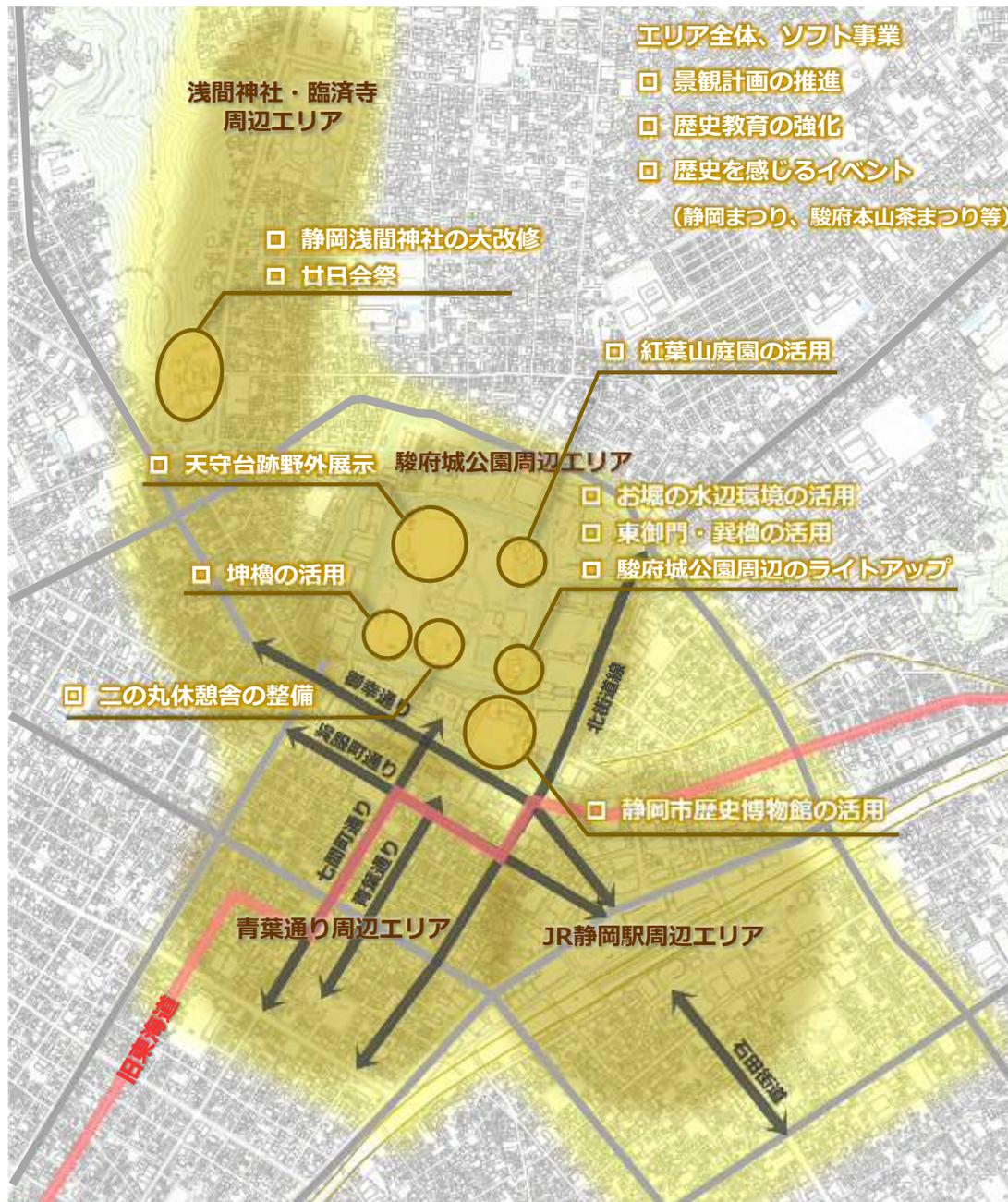


『駿府ホリノテラス』

検討会での意見・アイデア

方針1 <歴史を身近に感じる>

【リーディングプロジェクト位置図】



Leading Project

方針の実現に向けた具体的な取組をリーディングプロジェクトとして位置づけ、重点的に実施します。

<方針1 歴史を身近に感じる>

- 駿府城公園周辺エリアにおいて、歴史資源を活用するための環境整備を進めます。
- また、各エリアの中心にある御幸通りを重要なラインとして認識するとともに、市民や来訪者が気軽に参加できる歴史に関わりのあるイベント等により、賑わいを創出します。

【リーディングプロジェクト】

- ◆ 静岡市歴史博物館の活用
- ◆ 静岡浅間神社の大改修
- ◆ 天守台跡野外展示
- ◆ 静岡市景観計画(駿府城公園周辺地区)の推進
- ◆ 歴史資源の活用(東御門・巽櫓、坤櫓、紅葉山庭園)
- ◆ お堀の水辺環境の活用
- ◆ 二の丸休憩舎の整備
- ◆ 駿府城公園周辺のライトアップ
- ◆ 小中学生などが興味をもつ歴史教育の強化
- ◆ 歴史を身近に感じるイベントなどの実施



視点4 文化資源の磨き上げ

「おまち」ファンづくりに向けて、まちの魅力を楽しめる機会を創出する

- ▶ 静岡市には、歴史資源に加え、江戸時代から続く伝統工芸品、日本一の出荷額を持つプラモデル、アジア最大級の集客力を誇る大道芸ワールドカップin静岡、市民の食生活に定着している静岡おでん、お茶、しずまえ鮮魚など、様々な魅力があふれています。
- ▶ このような貴重な文化資源を途絶えさせることなく、後世に伝承していくことが重要です。
- ▶ そこで、これらの文化資源を活かし、美食のまち、ホビーのまち、芸術のまちなどとして、コアなファンを掘り起こし、来訪してもらうことが重要となります。
- ▶ また、このような文化資源を守っていくためには、その価値を高め、経済活動につなげていく必要があるとともに、その価値を知ってもらうための情報発信やマーケティングも必要となります。



『プラモデルをイメージしたプラモニュメント』
江戸時代、久能山東照宮や静岡浅間神社の造営に際し、全国の職人たちを静岡に集めたことに始まり、木工文化がプラスチックに派生しプラモデル文化が発展した。

五感で楽しめる機会の提供

● 静岡市民文化会館の活用

- ✓ 静岡市民文化会館のリニューアルを進める など

● アート&エンターテインメントの発信

- ✓ 伝統文化、工芸技術とアート&デザインを融合し、世界に発信する
- ✓ 大道芸、ストリートミュージック、パフォーマンス&アート等の世界的な聖地を目指す
- ✓ エンタメ & アート文化大学を誘致する
- ✓ 御幸通りに常設の大道芸観覧席を設置する など

● 地産地消・美食プロジェクト

- ✓ 豊かな食の素材と食文化を活かすとともに、地産地消を進め、美食都市としてブランドを確立する
- ✓ “食のSHIZUOKA”を支えるシェフとスタッフを表彰するアワード“静岡版ZAGAT”を開設する
- ✓ 観光客や市民のマイボトルへの給茶サービスを行い、マイボトルの推奨（SDGs）、リーフ茶消費の向上、お茶の町としてのブランディング等につなげる など



『伝統工芸品』
江戸時代、久能山東照宮や静岡浅間神社の造営に際し、全国の職人たちを静岡に集めたことに始まる。



『静岡おでん』
濃口醤油を使用した黒っぽい出汁で煮込んだおでん。サバやイワシを骨ごとすり身にして加工する「黒はんぺん」などの具が特徴で、だし粉と青のりをかけて、みそやからしをつけて食べることが多い。



『大道芸ワールドカップin静岡』
1992年に始まり、開催期間には150万人以上が訪れるアジア最大級のストリートシアター・フェスティバルとなった。

▲写真撮影：
田中浩さん
(市民カメラマン)

検討会での意見・アイデア

視点5 憩いの空間づくり

来訪者を惹きつけ、やすらぎが感じられるおもてなし空間づくりを進める

- 静岡都心は、近年、まちなかの歩行者通行量の減少や空き店舗の増加などにより、地域の活力の低下が懸念されています。
- これまで、静岡都心の中心的な機能であった商業については、郊外大型店やEコマースなどの影響を受けることが想定され、今後、より都心に来る目的が変化することが想定されます。
- このため、まちなかでの居心地の良い空間づくりや、ひと中心の歩いて楽しいまちづくりにより、人々の往来や滞在時間などを増加させ、経済の活性化につなげる好循環を生み出すことが必要となります。
- また、夜景や四季の演出など、商店街の景観づくりに工夫を凝らし、さらには照明やアートなどがまちなかを彩ることで、来訪者がリアルタイムでSNSを活用して情報発信するなど、まちに賑わいを生み出すことが必要となります。

検討会での意見・アイデア 

来訪者が歩きやすい道づくり

● ウォークブルな都心部の実現

- ✓ 「青葉シンボルロード」のさらなる利活用に向けた再整備を行う
- ✓ 御幸通り・青葉通り・呉服町通り・浅間通りを歩行者専用道路にする
- ✓ 静岡都心でのライフスタイルのひとつとして「おまちラン・スタイル」を打ち出すための散策路やランニング環境づくり（ハード&ソフト）を進める
- ✓ 歩きたくなるようなきっかけづくりや、楽しく歩くための仕掛けなどを実施する など

まちなかでの居心地の良い空間づくり

● 水や緑を感じる空間の創出

- ✓ 無電柱化を推進し、街路樹を増加する
- ✓ アスファルトの道から芝生と花のみちづくりを進める
- ✓ 富士山が見える場所と見え方の分析・情報発信を行う など

● まちなか空間の日常的な活用の推進

- ✓ イベント空間、アート空間としてまちなかを活用する
- ✓ 居心地の良い芝生広場を整備する
- ✓ おしゃれなカフェ、魅力的な飲食店、宿泊機能を誘致する など

● ナイトツーリズムの推進

- ✓ 宿泊、飲食需要につなげるためナイトタイムエコノミー（18時から翌朝6時までの活動で、夜間の楽しみ方を拡充し、消費活動や魅力創出を図る）を充実する
- ✓ 青葉シンボルロードイルミネーションを冬の風物詩として開催する など



『青葉シンボルロード
イルミネーション』



『冬しず2021-2022
おまちワンダーランド
フラワーベアー』

視点6 観光・移住の促進

「おまち」ファンを中心として、人が人を呼ぶ仕掛けづくりを進める

- ▶ 歴史資源や文化資源などが充実していても、それが、人々に認知されていなければ、ファンになってもらうことはできません。
- ▶ そこで、このような資源を知ってもらい、静岡都心に興味を持ってもらい、観光や仕事でも訪れてみたいくなるような働きかけが必要となります。
- ▶ 「学び」「働き」「遊び」などの生活を自分流にデザインできる環境を整備し、住む人や働く人、訪れた人などが静岡都心に憧れを抱いて、様々な人が活動することで、持続的な人の交流が生まれます。
- ▶ このように、ファン同士のコミュニケーションの活性化につなげ、交流人口や関係人口の拡大を図るとともに、「おまち」ファン自身がコーディネータとなって魅力を発信することで、新しいファンを呼び込むことにつながります。

検討会での意見・アイデア

情報発信体制の構築

● 情報発信のためのプラットフォームの構築

- ✓ SNS等で発信される多彩なイベント情報を一元化したプラットフォームの運営を進める など

● 静岡駅で「おまち」を感じる取組の推進

- ✓ 新幹線改札を出た空間の印象・インパクトにこだわったデザインを導入する
- ✓ 観光案内所のオープン化（市民も立ち寄るような観光以外の情報の提供）を進める など

● 観光クラスター協議会の設置

- ✓ 市内の徳川氏関連の歴史資源や観光施設による「観光クラスター協議会」を設置し、各施設の有機的な連携によりまちの賑わいや経済の活性化へと繋げていく など

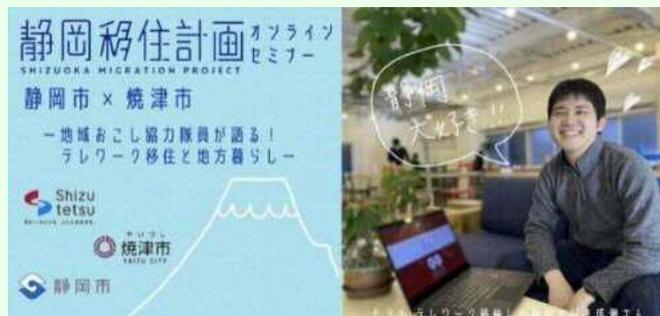
● おまちファンを呼び込む仕掛けづくり

- ✓ ガイドと歩くまち巡り「（仮称）静岡おまち詣で」を市民・ファンを巻き込んで実施する
- ✓ 市民活動をポイント制として、高ポイント者を名誉市民に任命する など

移住を支える住宅の確保

● 「おまち」暮らしを支える住宅のストック

- ✓ おまちの魅力を発信しつづける若い人が購入できる価格帯の住宅を積極的に誘導する など



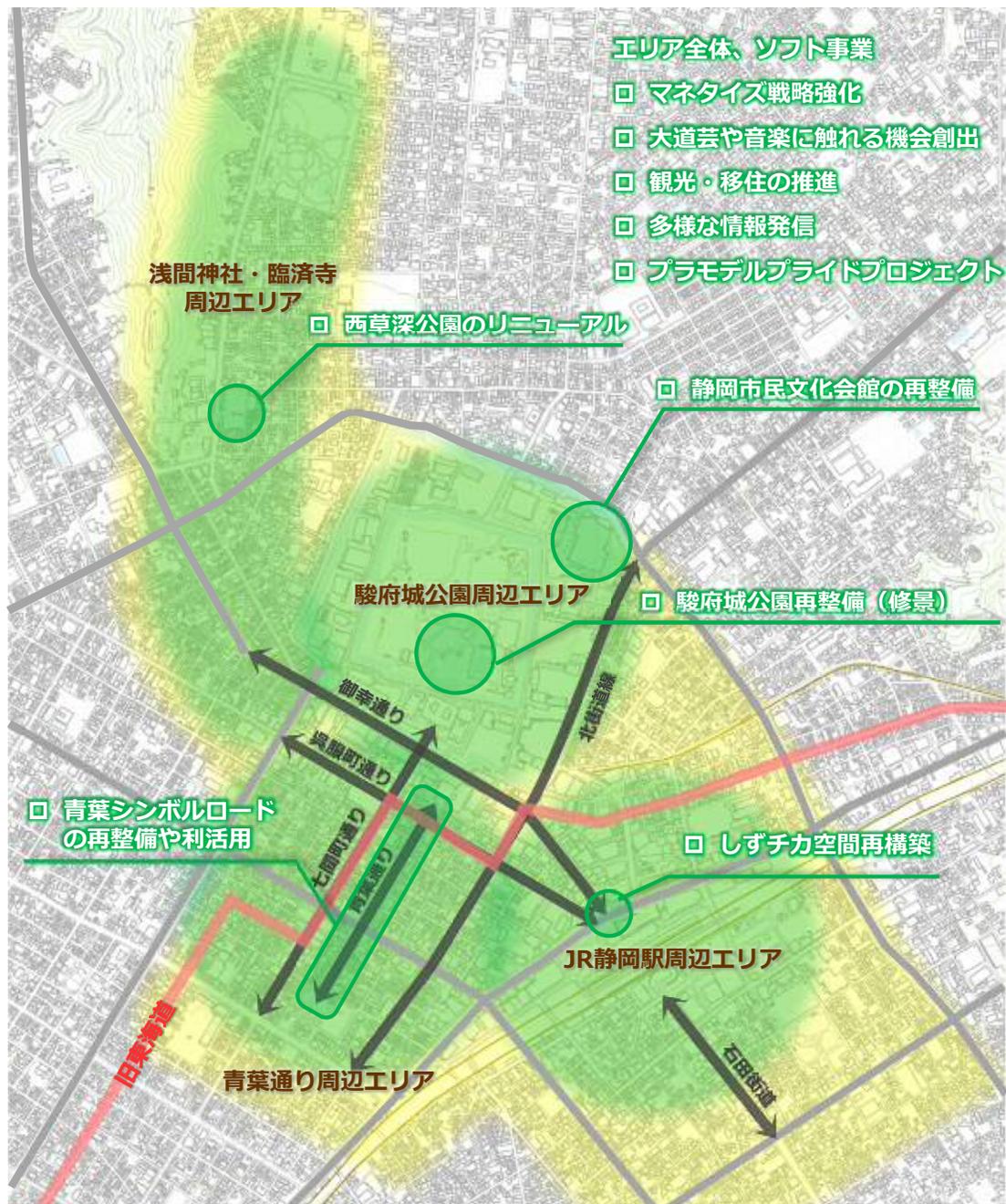
『テレワーク移住に向けたオンラインセミナー』



『静岡市観光ボランティアガイド「駿府ウェイブ」』

方針2 <「おまち」のファンになる>

【リーディングプロジェクト位置図】



Leading Project

方針の実現に向けた具体的な取組をリーディングプロジェクトとして位置づけ、重点的に実施します。

<方針2 「おまち」のファンになる>

- 青葉通り周辺エリアにおいて、まちなかの魅力を向上し、回遊性・快適性を高めるための空間づくりを行います。
- また、市民文化会館の再整備や文化イベントの開催により、エンターテイメント等による来訪機会を積極的に提供します。

【リーディングプロジェクト】

- ◆ 静岡市民文化会館の再整備
- ◆ 駿府城公園再整備(修景)
- ◆ 文化資源のマネタイズ戦略強化
- ◆ 大道芸や音楽などに日常的に触れる機会の創出
- ◆ 青葉シンボルロードの再整備や積極的な利活用
- ◆ 西草深公園のリニューアル
- ◆ 観光、移住の推進
- ◆ SNSなどの多様な情報ツールによる魅力発信
- ◆ しずチカ空間再構築事業
- ◆ プラモデルプライドプロジェクト



青葉シンボルロードの活用



プラモデルプライドプロジェクト

視点7 まちの更新

都市アセットの活用により持続可能なまちの形成に向けた都市機能の更新を進める

- 静岡都心においては、戦後から高度経済成長期に形成されてきた建物の老朽化が進み、防災面からも課題となっているため、今後、建築物の建替えやリニューアルなどが急務となっています。
- 一方、新静岡セノバ、葵タワー、呉服町タワー、札の辻クロスなどの再開発プロジェクトや呉服町通りのリニューアル、人宿町を中心とした民間開発により、少しずつまちが変わりつつあります。
- 20年後を見据えたまちを形成していくためには、時代のニーズに応えながら、これまで静岡都心を支えてきた、官公庁、教育、文化、医療など都市機能を確保するとともに、老朽化した建築物等を時代に合わせて更新（再開発、個別建替え、リニューアルなど）することが求められます。
- また、中心市街地に点在する空き店舗や低未利用地を活用して、時代に合わせた新たな活用方法の検討が必要です。
- これらの更新に当たっては、脱炭素社会を意識したクリーンエネルギーの活用や、建てる時から解体のことを考えたサーキュラエコノミーを考慮していく必要があります。

都市機能の更新

● まちの都市機能の強化

- ✓ 20年後を見据えたまちづくり指針の作成及び公共的空間の利活用を推進する
- ✓ 城北公園をPark-PFIとしてカフェなどの機能を民間活力により再整備を行う
- ✓ 専門学校の誘致など、時代に合わせた商業エリアの再開発を進める
- ✓ 公共的施設（病院や官庁など）を都心部に確保する
- ✓ 空き店舗を高齢者や若者、市民や市外からの来訪者など様々な人が集えるコミュニティスペースとして活用する
- ✓ 静岡都心に集う多様な人が安全・安心に過ごせる防災（洪水対応、帰宅困難者の受け入れ等）を進める など

● JR静岡駅の交通結節点機能の強化

- ✓ JR静岡駅南口再整備により交通結節機能を強化する
- ✓ JR静岡駅から平面交差で国道1号を横断できるように改修する
- ✓ 公共交通を補完する移動手段として、静岡市シェアサイクル事業「PULCLE」を進める など

● まちの通りのリニューアル

- ✓ 「御幸通り」の100年後を見据えた景観計画を進める
- ✓ 静岡市民文化会館へのアプローチとなる「北街道線」の再整備を行う
- ✓ 歩行者優先の道路（モール化等）を目指し、「呉服町通り」の再整備を行う
- ✓ 周辺開発と連携した「人宿町人情通り」の再整備を行う
- ✓ 各施設や通りをつなぐ回遊性を高める取組を行う など



『時代に合わせた再開発』



『シェアサイクル（PULCLE）』



『空き店舗を活用した子育てスペース』

出典：まちなか再生ポータル

検討会での意見・アイデア

視点8 まちをつかう

公民共創によりまちなかのオープンスペースを日常的に活用し、賑わいを創出する

- ▶ 静岡都心は商業を中心に発展を続けてきており、今後も引き続き商業が主役となった都市機能を充実させていく必要がありますが、一方で、Eコマースなどの普及により、中心市街地への来訪機会は減少傾向にあります。
- ▶ このような時代の変化を柔軟に捉え、買い物をする場としての「おまち」から、買い物だけでなく、人とのコミュニケーションの場やそこでしか味わえない体験の場など、新たな魅力を創出することが求められます。
- ▶ そこで、新たな交流の場として、これまで人や車を安全に通行させるために使ってきた道路や、人々の安らぎの場所となっていた公園などの公共空間を、より積極的に市民の活動のために開放していく必要があります。
- ▶ さらに、公共空間だけでなく、民間の敷地も合わせて一体的に活用していくことで、活動のフィールドを増やすとともに、そこを活用する市民、事業者などのプレイヤーを増やすことが重要です。

検討会での意見・アイデア

まちを柔軟に活用する仕組みづくり

- まちの使い方を考える仕組みづくり
 - ✓ 公的、民間サービスを安全安心に、便利に快適に使うための市民参加型の合意形成プラットフォーム（静岡版Decidim（ディシディム））づくりを進める
 - ✓ 産学官民金の連携による地域の課題解決型研修を開催する など
- 通りや町ごとの個性をのばす仕組みづくり
 - ✓ 通りや町単位で見つめた個性と暮らしを担保するために、必要に応じて、地区計画・建築協定・緑化協定・まちづくり協定や、やわらかな「〇〇通りの暮らし方」（指南書など）をつくる など

新しいまちの使い方につながるMaaSの推進

- マイカー規制とMaaS（マース）の推進
 - ✓ 都心周辺部の駐車場（フリンジパーキング）への誘導や、駐車施策の見直しによるマイカーの乗り入れ規制等により、市街地の駐車場スペースの有効活用や渋滞緩和に努める
 - ✓ エリア内の交通については、まちでの活動やニーズに合った新たな移動サービス（タクシー、シェアバス、スクーターなど）の導入により、住民だけでなく観光客などの来訪者に対してもアクセシビリティを確保する など



『ハニカムスクエア』
車道の一部を歩行者の休憩、軽食、仕事の空間として提供



『車道のテラス化イメージ』

視点9 先端技術の活用と浸透

時代に沿った先端技術の活用により、 多様なライフスタイルの実現を図る

- ▶ デジタル技術の進展は目覚ましく、2030年頃には、6Gの実用化により、時間や場所にとらわれなくなり、自宅で多くのことができる想定され、中心市街地へ外向く動機や目的が多様化するなど、人や物の活動領域なども大きく変わることが予測されます。
- ▶ 現在、中心市街地では、屋外無料Wi-Fiが整備され、市民や来訪者が気軽にストレスなく様々な情報収集ができるようになっています。
- ▶ こうした先端技術を利用することにより、経済の活性化や地域コミュニティの再生、安心・安全の確保等、地域の課題解決などが期待されます。
- ▶ また、デジタル技術の活用により、ストレスなくまちなかにアクセスできるような環境整備や、まちなかでのスムーズな回遊が可能な移動手段の提供に加え、脱炭素社会を見据えた環境に優しいエネルギーの活用も重要となります。

検討会での意見・アイデア 

ITを活用した情報の共有

- **フリーWi-Fi等によるエリア情報の共有化**
 - ✓ フリーWi-Fi等を活用し、エリアの観光や防災などの情報を提供する など
- **おすすめ情報の集約**
 - ✓ SNS上に集まる静岡市民の投稿から市民がおすすめしたい情報を収集し、定期的にとりまとめて、市外向けに発信する
 - ✓ 市内の観光地のオープンデータカタログのポータルサイトを作成し、フォトコンテストやイベントを実施する
 - ✓ Open Street Map等の地図プラットフォーム上に参加した有志が市内の情報を登録する
 - ✓ MaaSアプリで、目的地までの多様な移動手段の情報を提供する など

電気自動車移動サービスの導入

- **グリーンスローモビリティ等による回遊性の向上**
 - ✓ まちなかにおいて、自動運転ロボットやグリーンスローモビリティ（時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス）を運行する など



『パーソナルモビリティ』

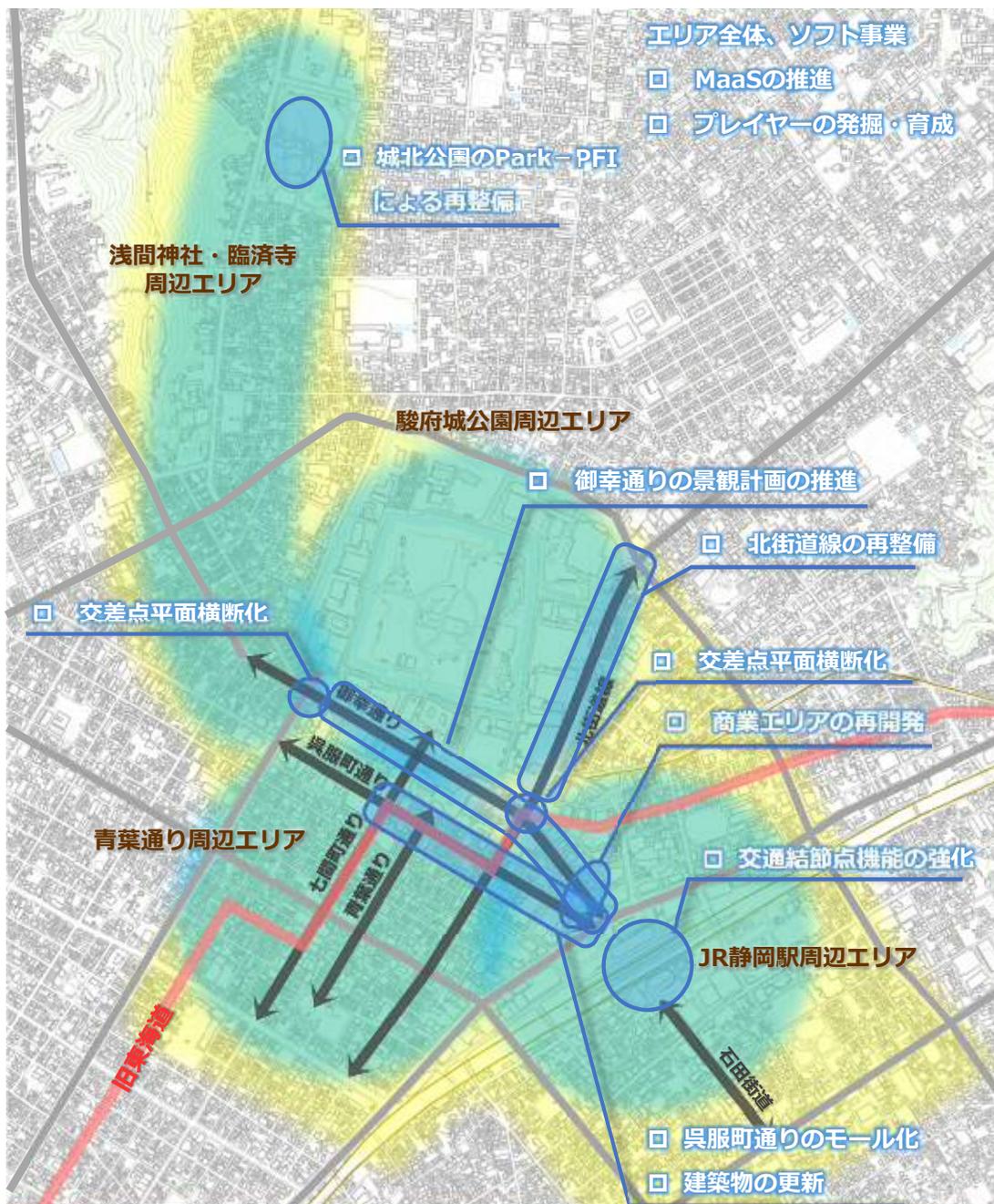
出典：TOYOTA HP



出典：『2040年、道路の景色が変わる』国土交通省

方針3 <心地よく暮らしやすい>

【リーディングプロジェクト位置図】



Leading Project

方針の実現に向けた具体的な取組をリーディングプロジェクトとして位置づけ、重点的に実施します。

<方針3 心地よく暮らしやすい>

- 商業施設の集積している青葉通り周辺エリアやJR静岡駅周辺エリアにおいて、まちを更新する再開発や通りの再整備を行います。
- また、民活による公園の再整備や先端技術を活用した移動手段の提供により、利便性・快適性の向上を図ります。

【リーディングプロジェクト】

- ◆ 防火建築帯、防災建築街区などの建築物の更新
- ◆ 商業エリアの再開発
- ◆ 城北公園のPark-PFIによる再整備
- ◆ JR静岡駅の交通結節点機能強化
- ◆ 御幸通りの景観計画の推進
- ◆ 交差点平面横断化
- ◆ 呉服町通りのモール化
- ◆ 北街道線の再整備
- ◆ MaaSなどによる交通アクセスの強化
- ◆ まちなかで活動するプレイヤーの発掘・育成



5. エリア別の方向性

静岡都心は、特徴的に以下の4つのエリアに分類することができ、これからの20年、歴史のまちづくりランドデザインを効果的に進めて行くため、これらのエリアの特性に応じた方向性に基づき取り組んでいきます。

- ① 静岡浅間神社、臨濟寺などの寺院や丘陵地を中心としたエリア⇒**浅間神社・臨濟寺周辺エリア**
- ② 駿府城跡を中心として、官公庁施設や文化施設が集積するエリア⇒**駿府城公園周辺エリア**
- ③ 駿府城の城下町として栄え、商店街や大型商業施設が集積するエリア⇒**青葉通り周辺エリア**
- ④ 静岡市の玄関口となるJR静岡駅周辺のエリア⇒**JR静岡駅周辺エリア**

① 浅間神社・臨濟寺周辺エリア

現状

- ・静岡浅間神社、臨濟寺など歴史資源が豊富に残されている
- ・エリア周辺の公共空間では、新たな活用が検討されている
- ・他エリアとつなぐプロジェクトが少ない

方向性

- ・静岡浅間神社、臨濟寺などの歴史資源を最大限に活かす
- ・他エリアとのつながりを強化する（交通、イベント等）
- ・城北公園などの公共空間を有効活用する

② 駿府城公園周辺エリア

現状

- ・歴史を感じる事業が数多く展開されている
- ・歴史文化の情報発信拠点となる施設の更新が進んでいる
- ・ファンになる取組など多目的な活用がされている

方向性

- ・残された歴史の特色を活かし、エリアに入ると異空間に入り込んだ雰囲気を感じられるようにする
- ・歴史資源をより身近に感じられるような取組を強化する

③ 青葉通り周辺エリア

現状

- ・シンボリックな歴史資源はなく、歴史を感じる取組は少ない
- ・これまでおまちの魅力となっていた、商業、飲食などが豊富
- ・時代に合った公共空間の新たな使い方も検討中

方向性

- ・老朽化した建築物を更新し、都市機能を維持する
- ・これからも商業が主役となるような取組を展開する
- ・駿府城公園周辺エリアとのつながりを強化する

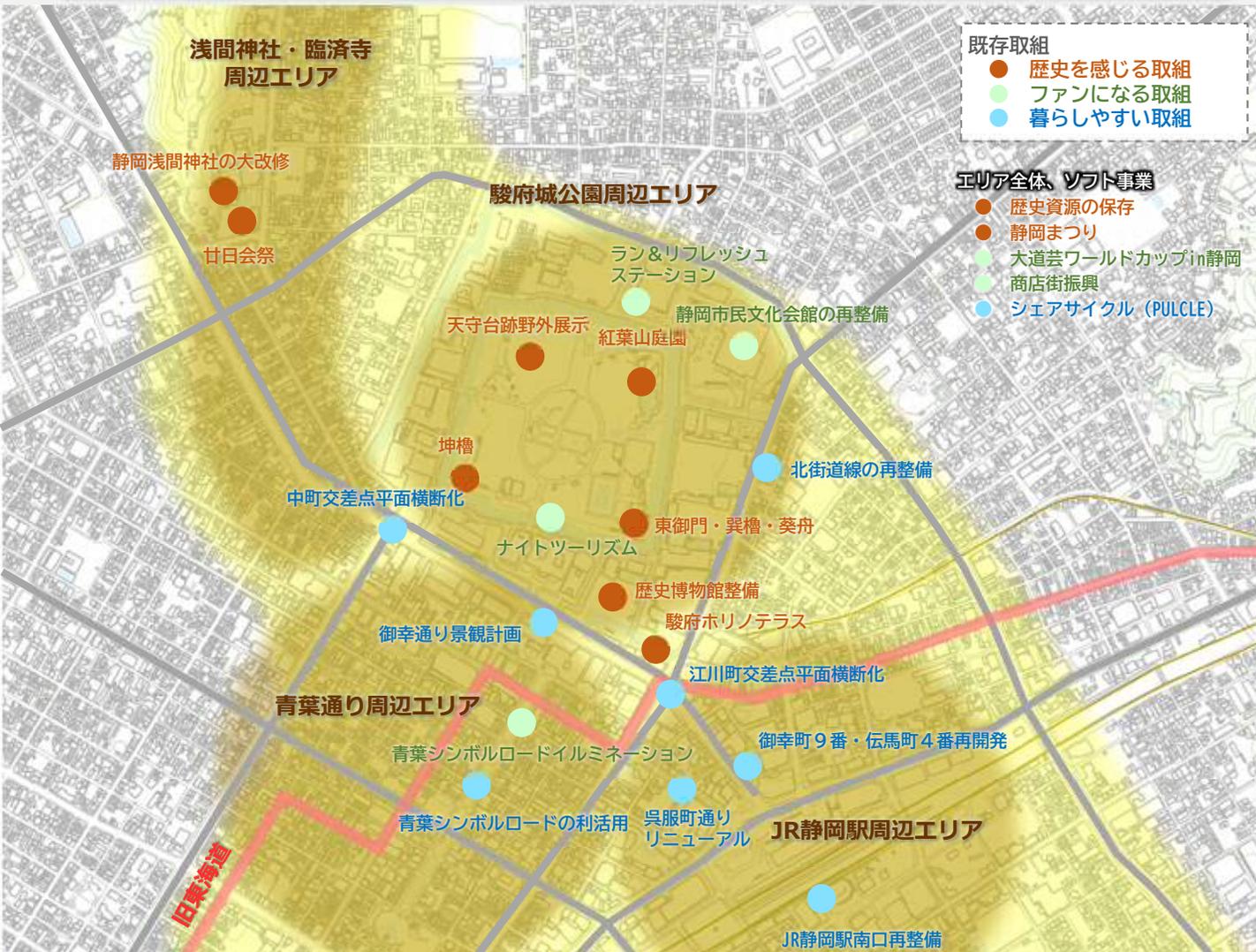
④ JR静岡駅周辺エリア

現状

- ・静岡市の交通結節点となっている
- ・シンボリックな歴史資源はなく、歴史を感じる取組は少ない
- ・時代に合わせ、再開発や再整備などを実施中

方向性

- ・交通結節点機能を強化し、玄関口としての風格をつくる
- ・他エリアへスムーズにアクセスできるようにする
- ・時代のニーズに応じた、再開発などを進める



5. エリア別の方向性

① 浅間神社・臨済寺周辺エリア

現状

- JR静岡駅から約2 km離れており、丘陵地の緑が多く残されている
- 静岡浅間神社、臨済寺などの歴史資源が存在している
- 城北公園では、民間活力を活用したリニューアルの検討が進んでいる
- JR静岡駅から路線バスや周遊する駿府浪漫バスなどでアクセスが可能である
- 平成26年から20年の歳月をかけて静岡浅間神社の大改修が行われている
- 他のエリアとをつなぐプロジェクトが少ない
- 観光用の駐車場が少なく、自家用車でのアクセスが不便

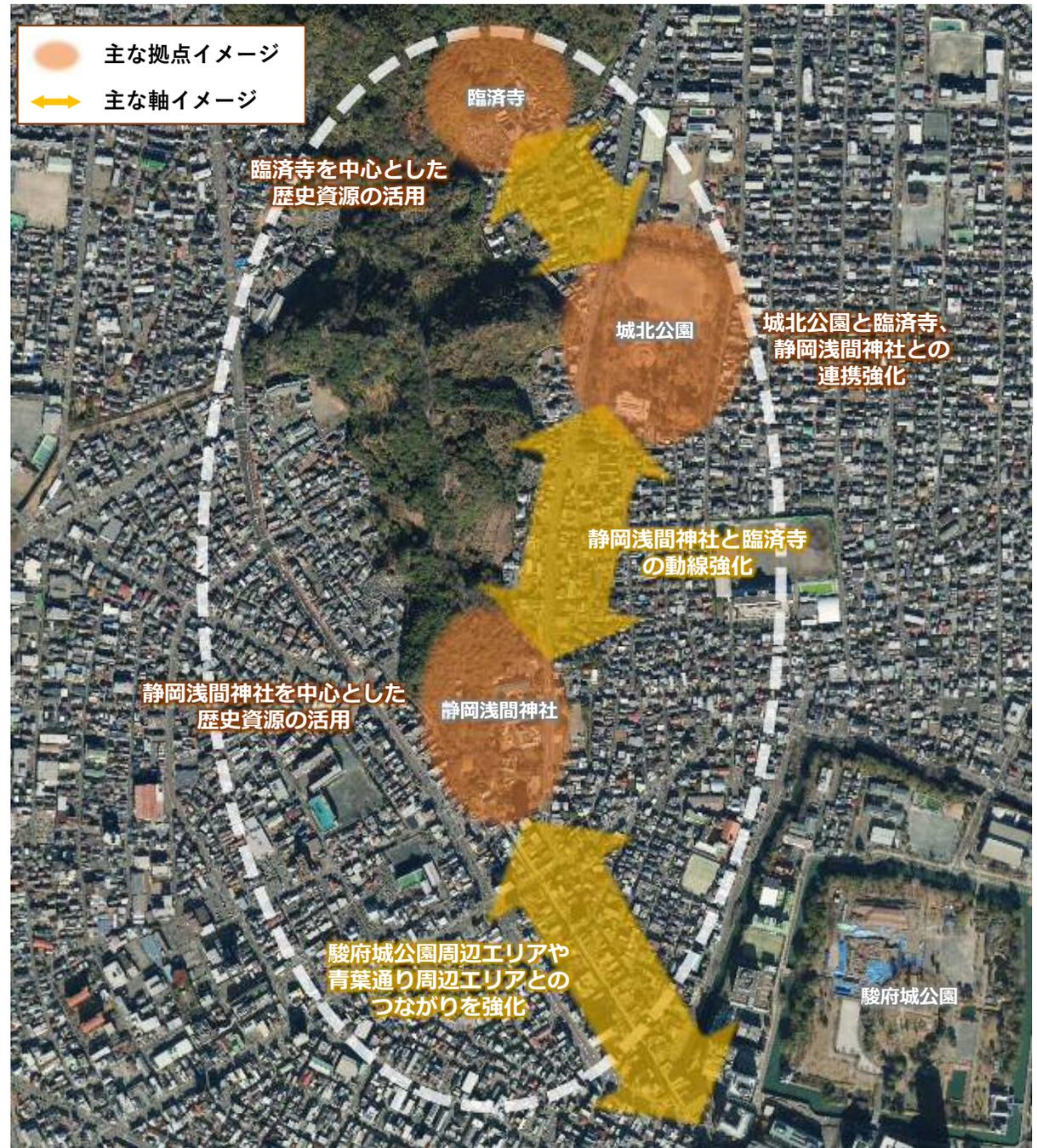
方向性

- 他のエリアにはない静岡浅間神社、臨済寺などの歴史資源を最大限に活かす
- 駿府城公園周辺エリアや青葉通り周辺エリアとのつながりを強化する（交通、イベント等）
- 城北公園などの公共空間を有効活用し、エリア全体の魅力の向上を図る
- このエリアまでストレスなく移動できる取組を増やす



◀平成26年度末から20年の歳月をかけて行われている静岡浅間神社の平成・令和の大改修

資料：文化財資料館



5. エリア別の方向性

② 駿府城公園周辺エリア

現状

- 駿府城公園を中心に、天守台跡の発掘調査や葵舟の運航など、歴史を感じる事業を数多く展開している
- 静岡市歴史博物館の建設や天守台跡野外展示など、歴史文化の情報発信拠点となる整備が進んでいる
- 駿府城公園は、中心市街地の貴重なオープンスペースとして市民や来訪者に親しまれており、ランニング、ヨガ、サップ、マルシェが開催されるなど、多目的な活用がされている



方向性

- 残された歴史の特色を活かし、駿府城公園周辺エリアに入ると異空間に入り込んだ雰囲気を感じられるよう、歴史資源を活かした都市景観を形成する
- 歴史が身近に感じられるように、静岡市歴史博物館や東御門・異櫓などを積極的に活用する
- 周辺道路の整備により他のエリアとのつながりを強化し人の流れを呼び込む



▲静岡市民文化会館再整備イメージ



北街道線の再整備イメージ▶



5. エリア別の方向性

③ 青葉通り周辺エリア

現状

- ・ 歴史資源は点在するものの、シンボリックな資源は少なく歴史を感じる取組は限定的である
- ・ 明治～終戦までは江戸時代の町割りを継承しつつ、大火復興および戦災復興土地区画整理事業により、現在の区画に近い形となっている
- ・ 商人・職人が住んだ碁盤の目状の町人町は、現在も呉服町や両替町等の町名が残り、商業活動の中心として賑わっている
- ・ 呉服町タワー、札の辻クロスなどのまちのリニューアルが進む一方、商業施設の老朽化や空店舗の存在などの課題が残されている
- ・ 時代に合った公共空間の新たな使い方も検討されている

方向性

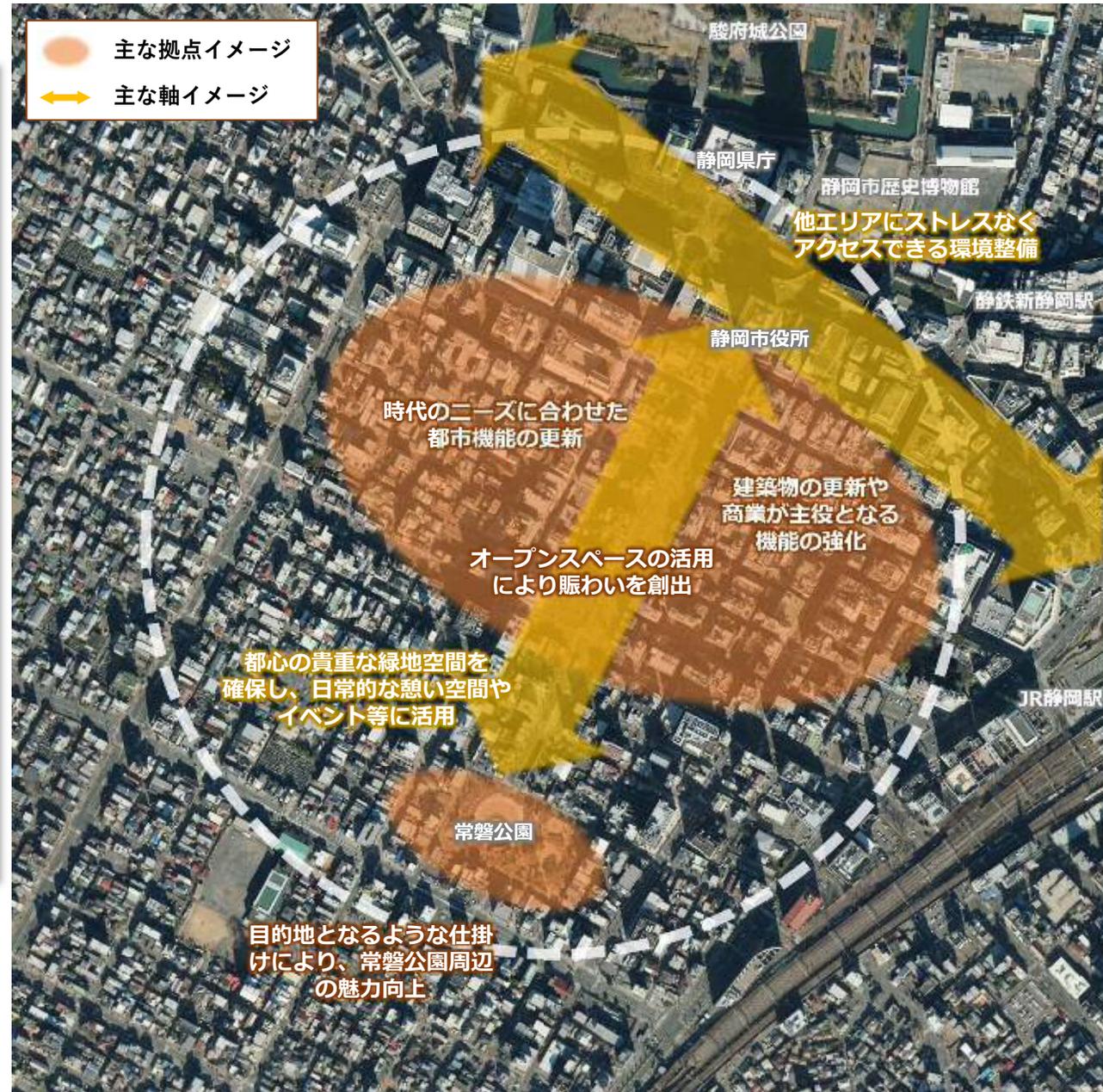
- ・ 現存する歴史資源は大切にするとともに、老朽化した建築物を時代のニーズに合わせて更新し、20年後も都市機能を維持する
- ・ これからも商業が主役となるような取組を展開する
- ・ 歴史的な要素はソフト的な取組を中心とし、駿府城公園周辺エリアとのつながりを強化する
- ・ 情報通信技術などの先端技術を活用することにより、利便性が高い日常生活や買物、観光などを実現する
- ・ 道路や公園などの公共空間や民間のオープンスペースを活用し、歩いて楽しいウォークアブルなまちを実現する



▲まちなか活用イメージ



▲公共空間イメージ



5. エリア別の方向性

④ JR静岡駅周辺エリア

現状

- JR静岡駅、静岡鉄道新静岡駅があり、静岡市の交通結節点となっている
- シンボリックな歴史資源は少なく、歴史を感じる取組は少ない
- 専門学校の誘致など、時代に合わせた再開発や再整備などが実施されている



方向性

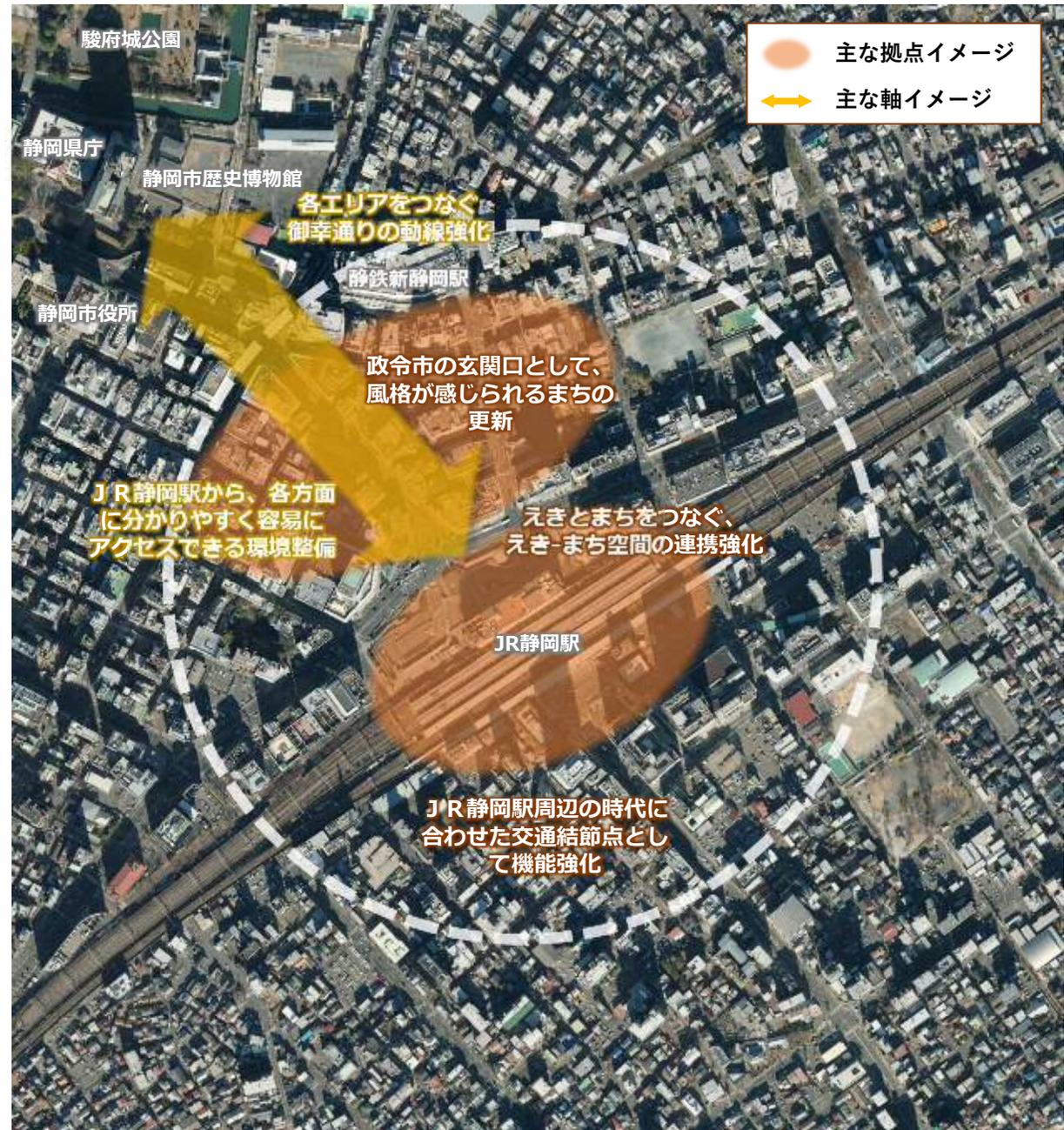
- 交通結節点機能を強化し、静岡都心の玄関口としての風格をつくる
- 駅から駿府城公園エリアに向かう動線において、歴史に誘うような取組を進める
- 市民や来訪者がJR静岡駅を降りた時に、歴史や文化が感じられるような取組を進める
- 都市のシンボリックな存在を保ちつつ、先端技術を活用し他のエリアハスムーズにアクセスできるようにする
- 時代のニーズに応じた、再開発などを進める



▲JR静岡駅周辺イメージ



▲まちの更新イメージ



6. グランドデザインの実現化に向けた実施体制

<グランドデザインの推進の考え方>

- ▶ グランドデザインの実現に向けては、これまでの地域の活動や実状に配慮しつつ、地域に根付いた取組として、市民・来訪者、事業者、行政などの関係者を巻き込みながら、持続的・発展的な推進体制のもとに取り組んで行くことが重要となります。
- ▶ そのため、行政はこのグランドデザインに基づき、様々な取組を展開するとともに、このグランドデザインの考え方を反映した「（仮称）文化財保存活用地域計画」や「（仮称）静岡都心地区まちなか再生指針」などを中心に推進していきます。
- ▶ また、市民や事業者を巻き込むために、現在も活動を実施している「各商店会」などの活動団体を支援するとともに、様々な形でまちづくりに参加できるような機運を醸成していきます。

<各役割イメージについて>

想定される主体
：自治会、市民団体、地域住民、来訪者など

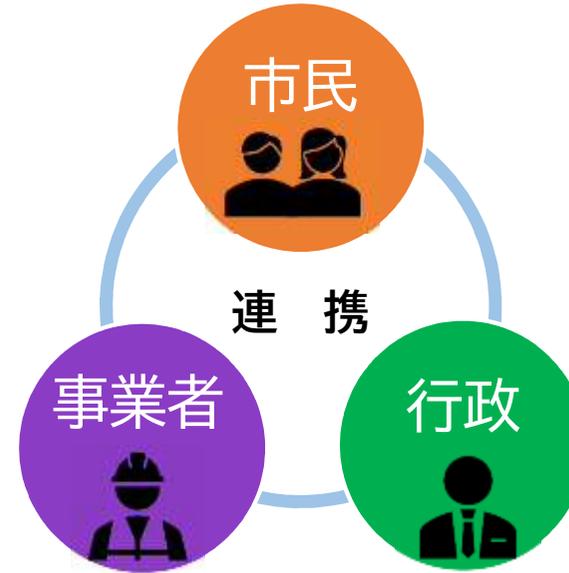
【想定される取組】
✓ イベントへの参加や協力による情報発信
✓ 日常的な公共空間の活用 など

想定される主体
：民間企業、商店会、大学など

【想定される取組】
✓ 「おまち」を盛り上げる商品開発やイベントの実施
✓ 建物のリニューアルや空き店舗の活用 など

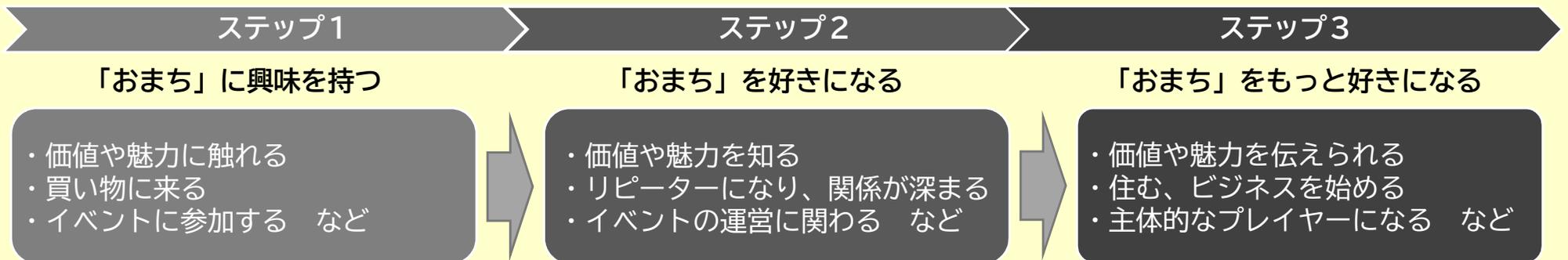
想定される主体
：静岡市など

【想定される取組】
✓ 公共事業の実施やイベント等の実施
✓ 規制緩和などのまちづくりに参加しやすくなるような仕組みづくり など



<市民・事業者を中心としたまちづくりへの関わり方（イメージ）>

※ステップ1～3 すべて「おまち」のファン



<用語集>

用語	解説
IOT (アイオーティー)	Internet of Things (インターネット オブ シングス) の略で、従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みのこと。
ICT (アイシーティー)	Information and Communication Technology (インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー) の略で、通信技術を使って人とインターネット、人と人が繋がる技術 (メール、SNSなど) のこと。
アクセシビリティ	近づきやすさ、利用のしやすさ、便利であることなど、利用者が機器・サービスを円滑に利用できること。
Eコマース (イーコマース)	商品やサービスをインターネット上で売買するビジネスモデルのこと。
eラーニング (イーラーニング)	コンピュータとインターネットを利用した、双方向的なコミュニケーションが可能な学習方法のこと。
インタープリター	自然や歴史の大切さや素晴らしさを参加者に伝える人。通訳者、解説者。
ウォークアブル	「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語で、文字通り「歩きやすい」「歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった語感をもつ。
AI (エーアイ)	人工知能 (ちのう) (Artificial Intelligence (アーティフィシャル インテリジェンス)) の略称。
AR (エーアール)	Augmented Reality (オーグメンテッドリアリティ) の略で、実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張するもの。
SNS (エスエヌエス)	Social Networking Service (ソーシャルネットワーキングサービス) の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。
Open Street Map (オープンストリートマップ)	自由に利用でき、なおかつ編集機能のある世界地図を作る共同作業プロジェクトのこと。
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易に利用 (加工、編集、再配布等) できるよう、公開されたデータのこと。
オーラルヒストリー	歴史研究のために関係者から直接話を聞き取り、記録としてまとめること。
グリーンスローモビリティ	時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。
公民共創	企業や各種法人、NPO、市民活動・地域活動組織、大学などの教育・研究機関などの多様な民間主体と行政などの公的主体が、相互の対話を通じて連携をし、それぞれが持つアイデアやノウハウ、資源、ネットワークなどを結集することで、社会や地域の課題解決に資する新たな価値を創出すること。
サーキュラエコノミー	循環型経済のこと。限りある資源をリユース (再利用)、リサイクル (再資源化)、リファーマビリティ (再整備) などを通じて有効に活用すること。
ZAGAT (ザガット)	レストランやホテルなどのサービスについての案内や評価をまとめたガイドブックのこと。
サップ	スタンドアップパドルボードの略称で、専用のボードに乗ってパドルで漕ぎ進むウォータースポーツのこと。
6G (シックスジー)	6th Generation (シックスジェネレーション) の略で、5Gに続く将来の無線通信システムのこと。
シビックプライド	シビック (市民の、都市の) + プライド (誇り) を合わせた言葉で、都市に対する誇りや愛着、郷土愛のこと。
ディンディム	オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結びつけていくための機能を有している参加型民主主義プロジェクトのためのオンラインツール。バルセロナやヘルシンキなど世界中の30を超える自治体で利用されており、日本国内では兵庫県加古川市で初めて導入されている。

<用語集>

用語	解説
デジタルアーカイブ	有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。
デジタルエレメント	デジタル(情報を0と1の数字の組み合わせ、あるいは、オンとオフで扱う方式で、数値、文字、音声、画像などあらゆる物理的な量や状態を表現できる⇔対義語はアナログ)で表現できる要素。
テレワーク	情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
都市アセット	官民の既存ストックのうち、利活用が都市生活の質や都市活動の利便性向上に資するもの。
ナショナルチェーン	全国的規模で複数の地域に展開している飲食・小売企業のこと。チェーン店。
ナレッジマネジメント	知識を共有して活用することで、新たな知識を創造しながら経営を実践すること。
2地域居住	主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点をもうける暮らし方のこと。
Park-PFI (パークピーエフアイ)	都市公園の魅力と利便性の向上を図るために、公園の整備を行う民間の事業者を公募し選定する制度のこと。
ファンベースマーケティング	ファンをベースにして中長期にわたり、売上を増やしていくマーケティング手法のこと。
VR (ブイアール)	Virtual Reality (バーチャルリアリティ) の略で、環境全体をシミュレーション、ユーザーの世界を仮想的な世界に置き換えるテクノロジーのこと。
フィールドミュージアム	まち全体をひとつの大きな博物館ととらえること。
プラットフォーム	サービスやシステム、ソフトウェアを提供・カスタマイズ・運営するために必要な「共通の土台(基盤)となる標準環境」のこと。
ブロックチェーン	ブロックチェーン技術とは情報通信ネットワーク上にある端末同士を直接接続して、取引記録を暗号技術を用いて分散的に処理・記録するデータベースの一種。
ポータルサイト	集客などの目的で作られるサイト。インターネット上にあるさまざまなページの玄関口となるWebサイトのこと。
MaaS (マース)	Mobility as a Service (モビリティ・アズ・ア・サービス) の略で、バス、電車、タクシーからシェアサイクルといったあらゆる公共交通機関を、ITを用いて結びつけ、人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするサービスのこと。
ワーケーション	「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、自宅以外の場所、観光地や帰省などの休暇先でリモートワークを行うことをいう。

葵歴史のまちづくりグランドデザイン

<資料編>

駿府のまちの成り立ち

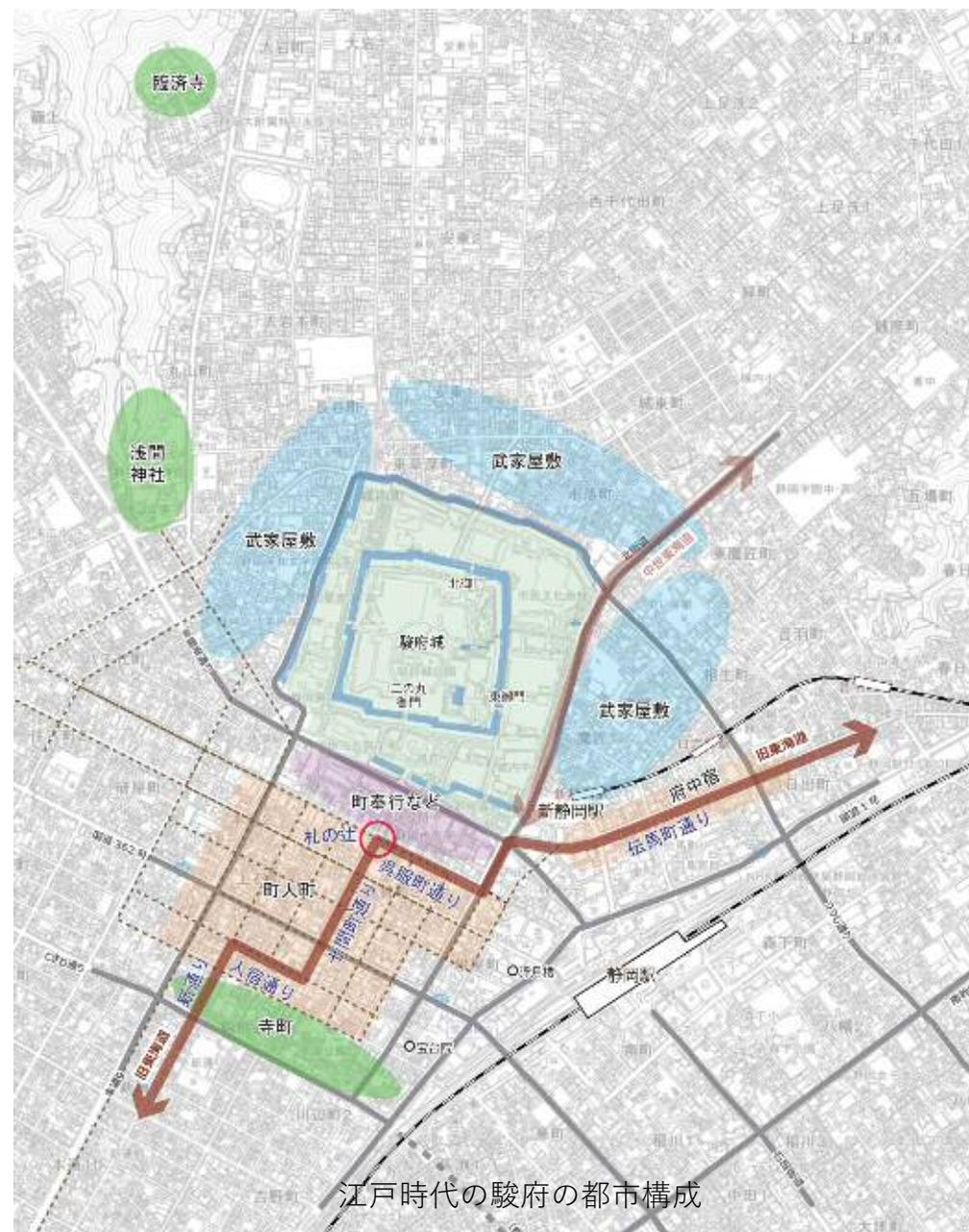
<江戸時代まで>

- 奈良時代には駿河国の国府がおかれ、その中心都市としての役割を担ってきた。
- 室町時代～戦国時代には、今川氏の城下町として文化が開花した。
- 江戸時代には、徳川家康により、駿府城下町が整備され、駿府城を中心に武家屋敷や商人・職人の居住地、寺院が設置された。
- 商人・職人の住んだ碁盤の目状の町人町は、現在も呉服町や両替町等の町名が残り、商業活動の中心として賑わっている。



家康在城時の駿府城下町を描いたとされる絵図「駿府城下町割絵図」(静岡市蔵)

資料: 歴史文化のまち静岡 さきがけミュージアムHP



江戸時代の駿府の都市構成

町名碑モデルコース

○徳川家康が整備したといわれる、駿府九十六ヶ町の町名の由来を記した町名碑が設置されている。

- 家康公は、「まちづくり」を進めるなかで、職人や商人たちを職業ごとに分けた町に住まわせた。現在もその名残がうかがえる地名が多く残されている。



1 (江戸時代東からきた旅人の玄関口)、2 (府中宿の碑)、3 (西郷・山岡会見の地)、4 (坤櫓)、5 (山田長政像)、6 (文化財資料館)、7 (善然寺)、8 (宝台院)、9 (徳川慶喜屋敷跡)、10 (静岡市美術館)、11 (家康銅像)



資料:歴史文化のまち静岡 さきがけミュージアムHP、観光交流文化局HP

静岡都心の変遷

<明治時代～昭和時代>

- 静岡都心では、現在に至るまで碁盤の目状の町割は継続して残っている。
- 明治～終戦までは江戸時代の町割がそのまま残っていたが、大火復興および戦災復興土地区画整理事業により、現在の区画に近い形となった。
- また、呉服町に残る防火建築帯は、この時期に「不燃化共同ビル計画」にもとづき、地域共同で火災に強いビルを建設、共同利用することを目的に建てられたものである。

1889（明治22）年



終戦後



1970（昭和45）年



静岡都心の変遷（明治～昭和）

資料：日本200年地図（河出書房新社）、静岡市都市計画マスタープラン、地理院地図

静岡都心の歴史（明治時代～令和時代）

	まちづくり関連		歴史文化関連	
明治 大正	明治22年 明治41年	静岡駅開業 鷹匠町駅開業（S29に新静岡駅に改称）	明治2年 明治3年 明治24年 明治29年	「駿府府中」を「静岡」と改称 駿府城二ノ丸冠木門払い下げ。以降明治9年までに大手門以下各城門が払い下げられ、取り壊される 静岡市、三ノ丸を除く大部分の払い下げを受ける 静岡市、駿府城跡を陸軍省に献納
昭和	昭和15年 昭和20年 昭和23年 昭和33年 昭和37年 昭和39年 昭和41年 昭和45年 昭和52年 昭和56年	静岡大火で中心部が焼失 静岡大空襲 青葉通りが完成（防火帯） 呉服町名店街ビルが完成 市内の路面電車が廃止 東海道新幹線静岡駅開業 紺屋町地下街（ゴールデン街）完成 新静岡センター完成（新静岡駅） 西武百貨店開店 静岡伊勢丹開店 静岡駅ビル パルシェ開店	昭和24年 昭和26年	静岡市、駿府城跡の払い下げを受ける 駿府城跡が「駿府公園」と名称が決まる
平成	平成4年 平成7年 平成18年 平成19年 平成21年 平成22年 平成23年 平成26年 平成27年 平成28年 平成29年 平成30年	第1回静岡大道芸が始まる 丸井開店、呉服町通りモール整備事業 西武百貨店閉店 109開店、西武百貨店跡に静岡パルコ開店 新静岡センター閉店 葵タワー・静岡市美術館完成（紺屋町） 新静岡セノバ開店（鷹匠） 七間町映画館6館がセノバへ移転 呉服町タワー完成（呉服町） マルイB館一時閉店（H28にモディとして開店） 駿河スカイタワー完成（南町） 109が閉店し東急スクエアとして開店 新静岡セノバリニューアルオープン 札の辻クロス完成（呉服町）	平成元年 平成8年 平成24年 平成26年	復元巽櫓（たつみやぐら）完成 復元二ノ丸東御門完成 「駿府公園」から「駿府城公園」に名称変更 復元坤櫓（ひつじさるやぐら）完成
令和	令和6年	御幸町9番・伝馬町4地区（事業中）	令和3年	東御門・巽櫓リニューアルオープン、葵舟運航開始 歴史文化の誘い道・駿府ホリノテラスオープン



静岡大火



復元巽櫓



復元坤櫓

資料：呉服町名店街HP、歴史文化のまち静岡 さきがけミュージアムHP、駿府城独案内パンフレット

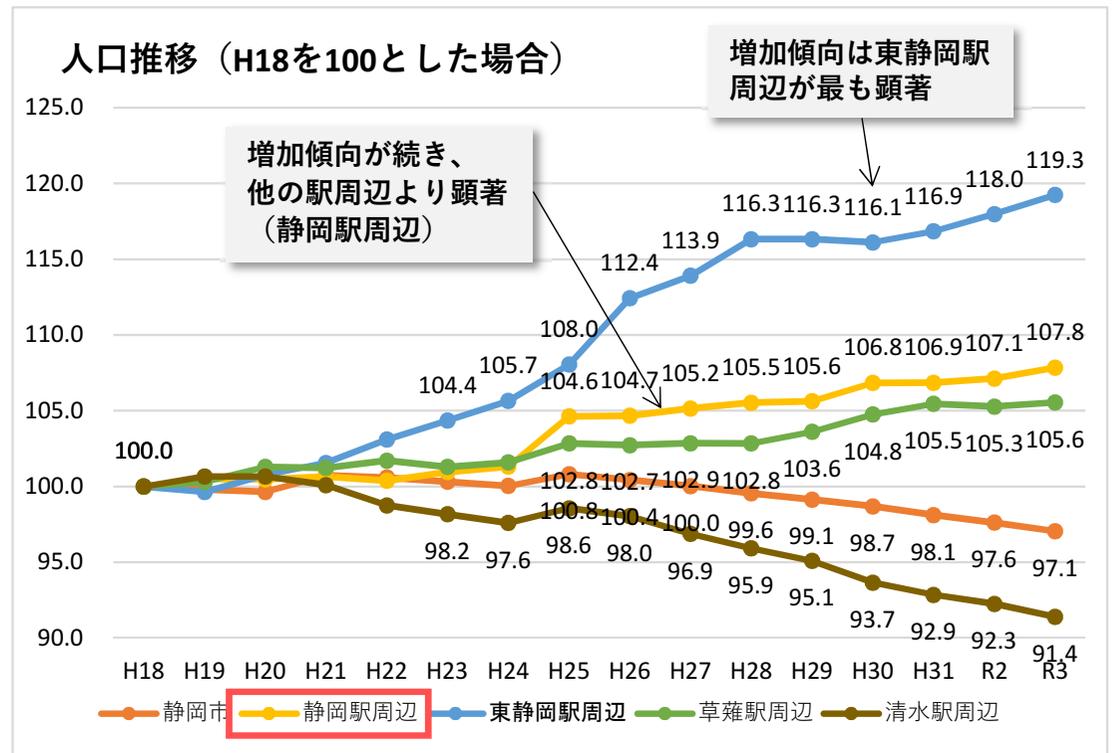
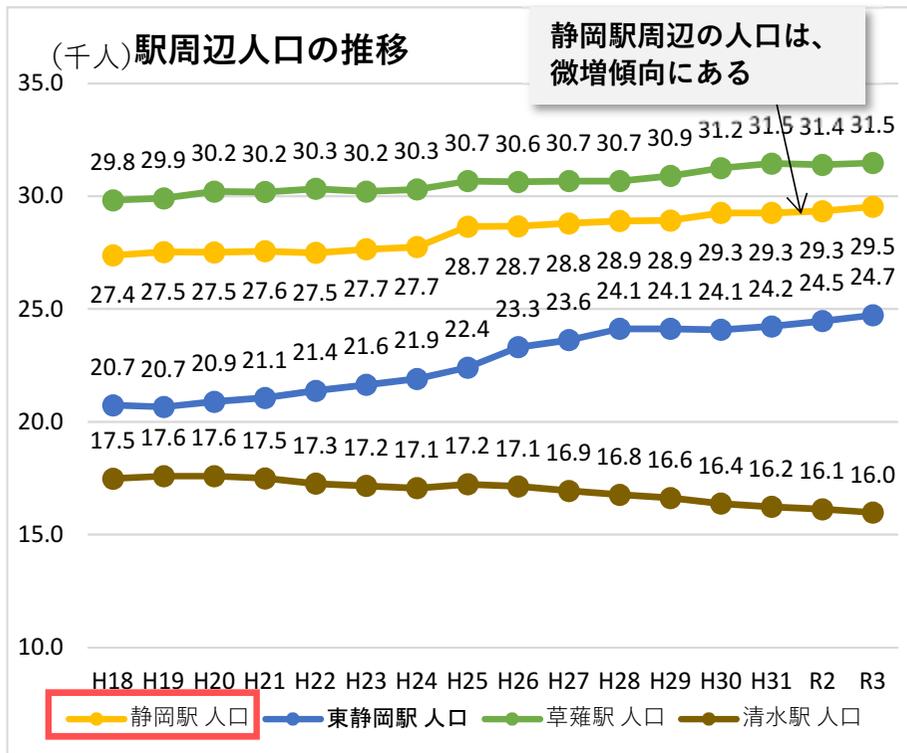
地区の人口の推移

<駅周辺の人口の推移>

○市全体の人口は減少しているが、静岡駅周辺の人口は微増傾向にある。

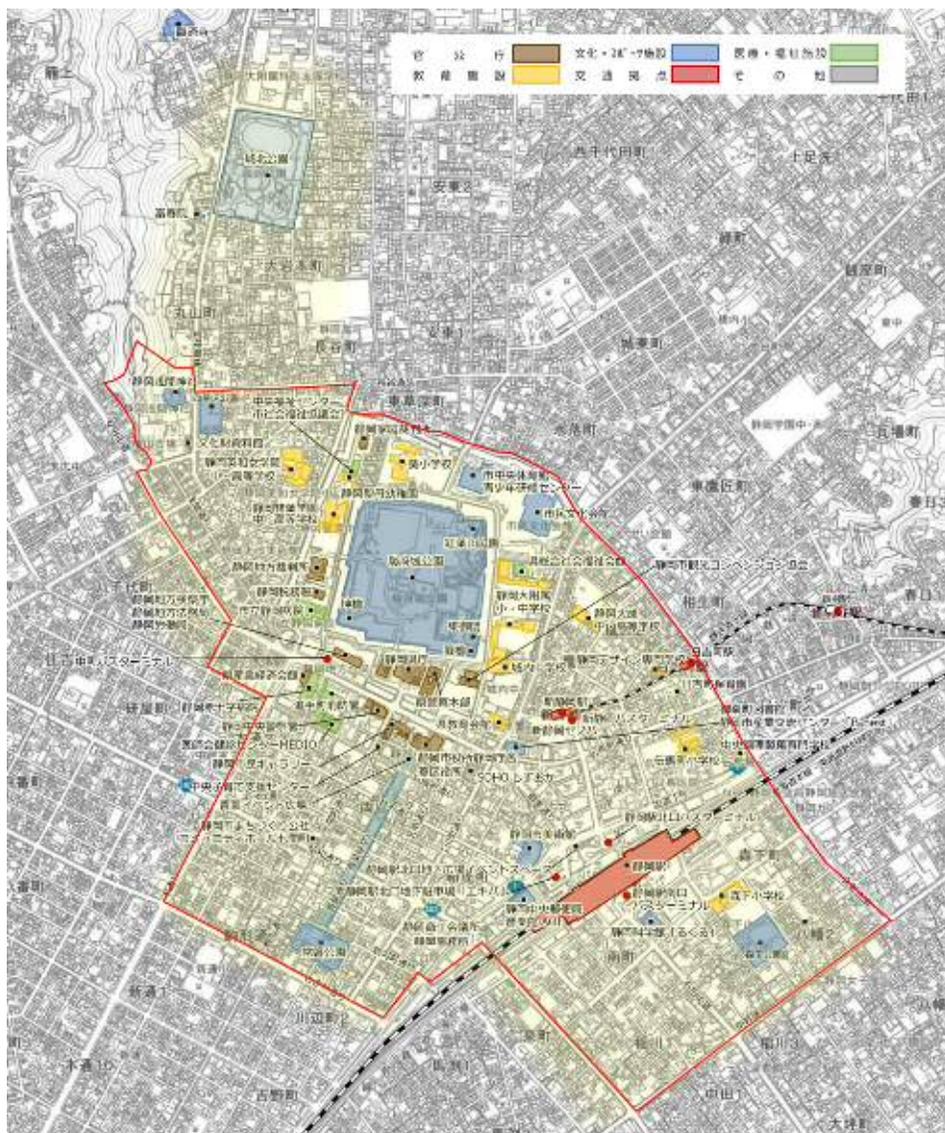
◆人口(各年3月31日)(単位:人)駅を中心とした1km圏

		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
静岡駅	人口	27,387	27,528	27,517	27,567	27,492	27,650	27,748	28,655	28,667	28,798	28,903	28,928	29,261	29,265	29,338	29,535
	世帯数	12,665	12,897	13,003	13,233	13,350	13,573	13,803	14,556	14,690	14,913	15,127	15,268	15,648	15,728	15,964	16,228
東静岡駅	人口	20,737	20,663	20,894	21,061	21,381	21,641	21,909	22,406	23,315	23,623	24,124	24,122	24,080	24,232	24,466	24,729
	世帯数	8,650	8,720	8,885	9,056	9,328	9,572	9,785	10,069	10,471	10,744	11,093	11,152	11,216	11,398	11,692	11,917
草薙駅	人口	29,824	29,915	30,212	30,193	30,333	30,212	30,301	30,672	30,638	30,678	30,673	30,903	31,245	31,453	31,399	31,481
	世帯数	11,900	12,046	12,291	12,391	12,506	12,576	12,715	13,103	13,199	13,304	13,404	13,628	13,986	14,264	14,413	14,620
清水駅	人口	17,481	17,596	17,596	17,497	17,264	17,161	17,062	17,230	17,140	16,936	16,768	16,624	16,373	16,232	16,127	15,977
	世帯数	6,859	6,997	7,061	7,112	7,087	7,171	7,218	7,440	7,508	7,524	7,553	7,553	7,548	7,564	7,645	7,661



資料：静岡市住民基本台帳人口・世帯数

○静岡都心には、官公庁施設、教育施設、文化施設、医療施設などの都市機能が面的に集積している。

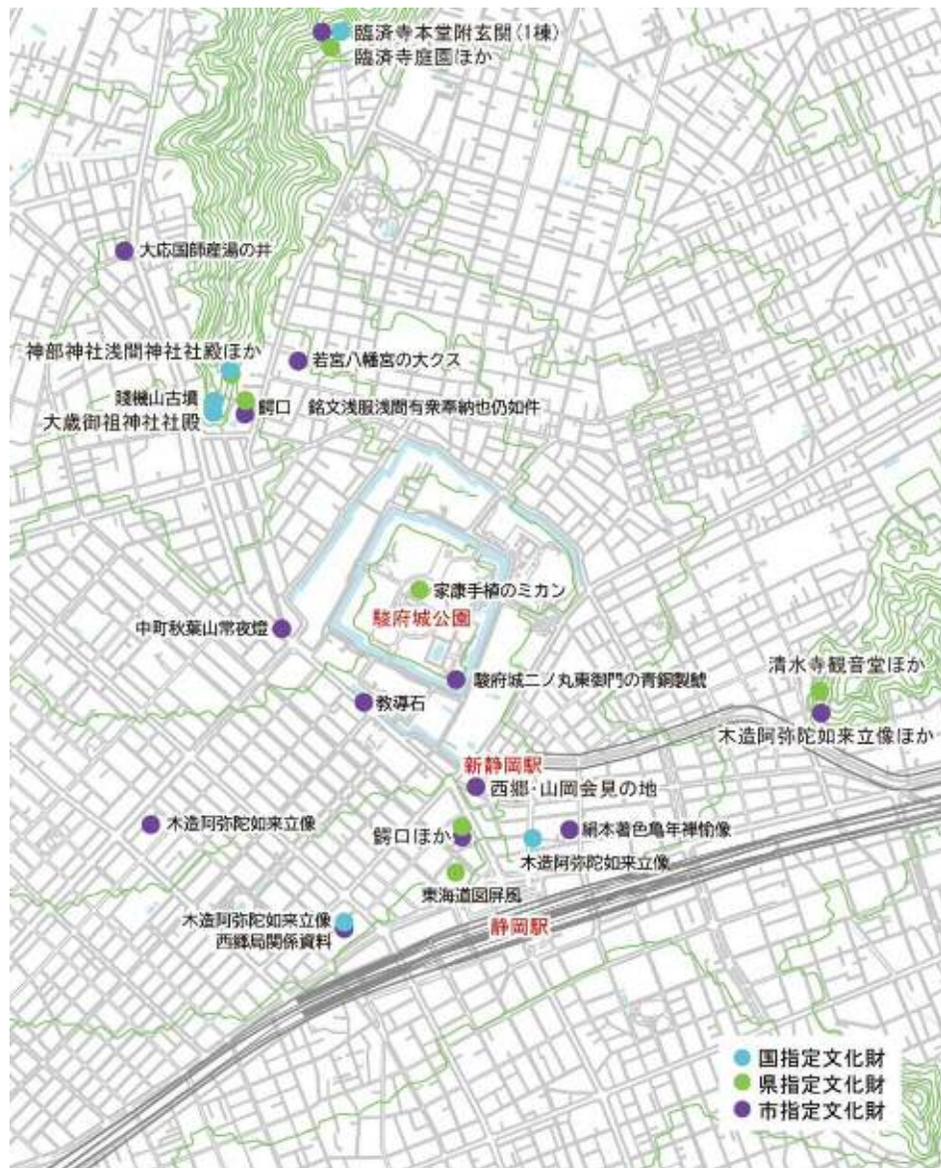


静岡都心地区における都市機能の立地状況

種別	施設名
官公庁	静岡市役所静岡庁舎・葵区役所、追手町消防署、静岡県庁、静岡県警察本部、静岡中央警察署、静岡地方裁判所、静岡家庭裁判所、静岡地方検察庁、静岡地方法務局、静岡税務署、静岡労働局、静岡市上下水道局 ほか
文化・スポーツ施設	静岡市美術館、静岡市民文化会館、静岡音楽館A O I、静岡市民ギャラリー、静岡科学館「る・く・る」、静岡市中央体育館、駿府城公園（東御門、紅葉山庭園、巽櫓、坤櫓等）、城北公園、常磐公園、森下公園、青葉シンボルロード、青葉イベント広場（葵スクエア）、静岡駅北口地下広場イベントスペース、札の辻クロスホール、静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター ほか
医療・福祉施設	市立静岡病院、静岡赤十字病院、医師会健診センターMEDIO、中央子育て支援センター、県総合社会福祉会館、市中央福祉センター、青少年研修センター、日吉町保育園、有料老人ホーム「ロングライフ・クイーンズ静岡呉服町」 ほか
教育施設	静岡大付属小学校・中学校、伝馬町小学校、葵小学校、森下小学校、城内中学校、静岡英和女学院高等学校・中学校、静岡大成中学校・高等学校、静岡雙葉中学校・高等学校、静岡聖母幼稚園、静岡デザイン専門学校、御幸町図書館、静岡県教育会館、鈴木学園中央調理製菓専門学校 ほか
交通拠点	J R 静岡駅、静岡鉄道新静岡駅、静岡鉄道日吉町駅、静岡駅北口バスターミナル、静岡駅南口バスターミナル、新静岡バスターミナル、中町バスターミナル、静岡駅北口地下駐車場「エキパ」 ほか
その他	静岡商工会議所静岡事務所、静岡市まちづくり公社、静岡市観光コンベンション協会、静岡市産学交流センター「B-n e s t」、静岡市創業者支援センター「SOHOしずおか」、静岡市クリエイター支援センター、静岡中央郵便局 ほか

資料：静岡市中心市街地活性化基本計画を一部修正

○静岡浅間神社、臨濟寺等の建造物のほか、駿府城下町であったエリアに文化財が多くみられる。



指定文化財の位置



建造物：神部神社浅間神社本殿



建造物：臨濟寺本堂



史跡：駿機山古墳
(しずはたやまこふん)



名勝：臨濟寺庭園

資料：国指定文化財等データベース(文化庁)



平成26年度末から20年の歳月をかけて行われている静岡浅間神社の平成・令和の大改修

資料：文化財資料館

グラウンドデザイン検討会 委員名簿

No	役割	名前	所属
1	経済	百瀬 伸夫	一般社団法人 IKIGAIプロジェクト 理事
2	都市政策	黒瀬 武史	九州大学大学院人間環境学研究院 都市・建築部門 教授
3	都市政策	雛元 昌一郎	三菱地所 コマーシャル不動産戦略企画部 開発戦略ユニット ユニットリーダー
4	歴史	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所客員研究員 歴史文化拠点推進監
5	歴史まちづくり ・観光	石山 千代	國學院大學研究開発推進機構 兼 國學院大學観光まちづくり学部 准教授
6	都市政策・経済	飯倉 清太	事業型「NPOサプライズ」代表理事 内閣府 地域活性化伝道師
7	経済	松下 友幸	静岡商工会議所 常務理事
8	市民委員	阪口 瀬理奈	